

# 平成 31 年度(第 82 回)通常総会資料

日時 平成 31 年 2 月 14 日(木曜日) 10:30~11:45  
場所 東京都千代田区一ツ橋 2-1-1  
如水会館 2 階 オリオンルーム

頁

【監査報告】			1
【平成 30 年度の総括と平成 31 年度の目標】			2
【決議事項】			
第 1 号議案	平成 30 年度決算報告承認の件	定款第 39 条の 1 および 2	3
第 2 号議案	平成 31 年度役員選任の件	定款第 23 条	11
第 3 号議案	名誉会員委嘱の件	定款第 5 条の 5	12
第 4 号議案	会費の改定の件	定款第 7 条	13
【報告事項】			
報告 1	平成 30 年度事業報告	定款第 39 条の 1 および 2	13
	1. 平成 30 年度通常総会報告		13
	2. 会員動向報告		14
	3. 事業報告(公 1:編集出版事業)		15
	4. 事業報告(公 2:研究会事業)		15
	5. 事業報告(公 3:表彰事業)		25
	6. 事業報告(他 1:共益事業)		27
報告 2	平成 31 年度事業計画	定款第 38 条の 2	30
報告 3	平成 31 年度収支予算	定款第 38 条の 2	33
報告 4	永年会員昇格者	定款第 5 条の 4	36
【参考資料】	(付表 1) 平成 30 年度一般正味財産の構成表		37



公益社団法人 有機合成化学協会

平成 31 年 2 月 14 日

担当者	事務局長	会長
		

## 【監査報告】

### 監査報告書

私たち監事は、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

#### 1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

#### 2 監査意見

##### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成31年1月21日

公益社団法人有機合成化学協会

監事 加藤 昌宏

加藤 昌宏 

公益社団法人有機合成化学協会

監事 高井 和彦

高井 和彦 

公益社団法人有機合成化学協会

監事 辻 尚志

辻 尚志 

以上

## 平成 30 年度の総括と平成 31 年度の目標

平成 30 年度における各事業の概要、法人管理・運営状況と平成 31 年度の目標について説明する。

### 【平成 30 年度の課題と取り組み】

本会の持続的な発展には会費収入の底入れと事業収益の改善が必須である。両者は相互に依存するが、事業価値の向上と適切な情報発信を不断に行うことが重要と考え以下の取り組みを行った。

まず、有機合成における AI の利用を学術・技術の両面から探るため「AI と有機合成化学」研究部会を創設した。予想を超える会員申込みがあり、本テーマへの関心の高さと時宜を得たタイミングを再認識した。

今年度は更に、バイオ関連技術との連携を探るため「ニューモダリティと有機合成化学」研究部会の創設に向けた検討を行い、来年度から事業委員会の分科会として講習会方式で運営することを決めた。

両事業の推進で、研究部会の内容は更に充実したものとなり、研究会事業の柱の一つとして事業価値の向上と収益の改善に貢献するものとする。

一方、会費収入低下の歯止めは長年の課題で、この 3 年間では年平均 137 万円の減少が見られたが、今年度は関係者の尽力で会費収入の落ち込みが大幅に圧縮された。特に、有機合成シンポジウム（春）の名古屋開催やホームページの見直しによる利便性や効率性の向上で、学生会員収入は前年比プラスに転じた。また、漸減が続いた法人会員も、新しい研究部会の立ち上げ等で前年に比べて改善した。

また、喫緊の課題につき中長期的な対応策を探り提言に纏めるため、理事で構成される二つの分科会を設置し、第一分科会では協会誌見直し、第二分科会では会員増強を討議した。

最後に、10月22日に内閣府による定期立入検査が実施された。前回(2015年)指摘事項の確認と書類審査が行われたが、今回は指摘事項が無く当協会の運営の健全性が証明された。

### 【編集・出版事業】

有機合成化学協会誌は予定通り 12 号を刊行した。5 月特集号「天然物化学はおもしろい！ -現場からの声-」をテーマに、天然物化学を専門とする若手研究者（30 名）の研究内容を掲載した。また、本年より、「感動の瞬間」および「Message from Young Principal Researcher」の連載を開始した。

### 【研究会事業】

有機合成化学講習会は、法人会員メリットを改善するため会費割引を設定して参加者増を期待したが、成果に繋がらなかった。一方、春の有機合成シンポジウム（名古屋大）は、ポスター発表数も前年比で増加し、活発な討論が行われた。また、東北支部主催の第 35 回有機合成化学セミナー（山形）では、充実したプログラムとともに産官学の有意義な交流の場を提供した。

新規事業として、「AI と有機合成化学」研究部会をスタートした。多くの法人・個人の登録があり、部会員へのさらなるサービス提供を図る基盤が確立できた。

### 【表彰事業】

平成 30 年度も、本会の表彰が全て揃い、内容的にも非常に高いレベルを維持した。企業冠賞は、5 賞からシオノギ賞、東ソー賞、日産化学賞、富士フィルム賞の 4 賞となったが、高砂香料国際賞「野依賞」、研究企画賞など会員企業の寄付に基づくその他の賞は例年通り実施した。Mukaiyama Award は、国際的にも高く評価されている当該賞を更に継続するため、運営方針の一部改定を行った。

### 【相互交流】

新春フォーラムや YUGOKAFé 等は、会員間の情報交換・交流の場を提供しており本会活動の重要なプラットフォームとなっている。

### 【財務環境】

30 年度は、収益 137.8 百万円、費用 137.2 百万円、収支 0.6 百万円となった。

### 【平成 31 年度目標】

本会の持続的な発展に必要な施策に引き続き取り組んでいきたい。研究会事業の新規では、研究部会「ニューモダリティと有機合成化学」を創設するとともに、関連する公開講演会を開催する計画である。既存の事業で見直しが必要なものは、その背景を探り抜本的な改善を加えたい。また、今年度の二つの分科会から出された提言は適宜実行に移していきたい。

一方、本会の活動領域を広げ充実化を図るため、他の学会との連携の可能性も検討する予定である。

これまでは経費の合理化と削減を中心に財務状況の改善を図ってきたが、今年度は、更に新たな価値の創造を探究することで、両者を両輪に活動を進めた。来年度もこの方針を踏襲しながら、本会の一層の発展に努力する決意である。

【決議事項】

第1号議案 平成30年度決算報告承認の件

定款39条に定めるところにより、p.3～10に示す諸表のとおり平成30年度決算書類を承認する。

表1・1 平成30年度正味財産増減計算書

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

科目	H30決算 A	H30予算 B	H29決算 C	A-B	A-C
【一般正味財産増減の部】					
1. 経常増減の部					
経常収益	137,778,404	139,438,625	134,391,094	▲ 1,660,221	3,387,310
特定資産運用益					
特定資産受取利息	814,635	774,000	802,492	40,635	12,143
退職特定資産受取利息	2,791	3,500	3,306	▲ 709	▲ 515
受取会費					
正会員費受取会費	69,363,000	68,511,860	69,857,000	851,140	▲ 494,000
事業収益	56,738,469	59,493,000	53,386,306	▲ 2,754,531	3,352,163
編集出版事業収益	14,038,312	15,113,000	15,218,900	▲ 1,074,688	▲ 1,180,588
研究会事業収益	34,600,157	36,230,000	32,667,406	▲ 1,629,843	1,932,751
表彰事業収益	8,100,000	8,150,000	5,500,000	▲ 50,000	2,600,000
受取寄付金	6,510,347	6,690,000	5,977,635	▲ 179,653	532,712
共催分担金	1,941,000	1,090,000	1,450,000	851,000	491,000
国際賞基金	2,923,959	4,000,000	2,808,089	▲ 1,076,041	115,870
Mukaiyama Award基金	1,645,388	1,600,000	1,501,546	45,388	143,842
受取一般寄付金	0	0	218,000	0	▲ 218,000
雑収益	4,349,162	3,966,265	4,364,355	382,897	▲ 15,193
受取利息	834	6,265	775	▲ 5,431	59
雑収益	99,828	220,000	105,780	▲ 120,172	▲ 5,952
懇親会参加料収益	4,248,500	3,740,000	4,257,800	508,500	▲ 9,300
経常費用	137,208,138	141,117,167	132,176,109	▲ 3,909,029	5,032,029
事業費および管理費	137,208,138	141,117,167	132,176,109	▲ 3,909,029	5,032,029
編集出版事業費	27,140,641	26,306,605	26,627,855	834,036	512,786
研究会事業費	28,429,072	32,323,670	28,108,157	▲ 3,894,598	320,915
表彰事業費	12,871,186	14,448,657	10,484,795	▲ 1,577,471	2,386,391
給料手当	29,174,991	28,410,735	29,003,838	764,256	171,153
アルバイト費	2,442,500	2,450,000	2,448,303	▲ 7,500	▲ 5,803
退職給付費用	3,002,791	3,000,000	2,303,306	2,791	699,485
その他人件費(福利厚生費)	5,662,818	5,800,000	5,856,980	▲ 137,182	▲ 194,162
懇親会費	8,184,436	7,310,000	7,405,723	874,436	778,713
会議費	881,991	1,335,000	976,104	▲ 453,009	▲ 94,113
旅費交通費	3,881,676	3,605,000	4,037,593	276,676	▲ 155,917
通信費	1,167,776	1,356,000	1,251,384	▲ 188,224	▲ 83,608
什器備品費	207,593	300,000	189,108	▲ 92,407	18,485
事務用品・リース費	1,978,596	1,900,000	2,077,342	78,596	▲ 98,746
水道光熱費	214,790	290,000	256,598	▲ 75,210	▲ 41,808
事務所賃借料	4,367,520	4,367,000	4,367,520	520	0
諸謝金	1,197,180	1,200,000	1,197,720	▲ 2,820	▲ 540
雑費(税・手数料・会費・IT)	6,402,581	6,714,500	5,583,783	▲ 311,919	818,798
当期経常増減額	570,266	▲ 1,678,542	2,214,985	2,248,808	▲ 1,644,719
2. 経常外増減の部					
経常外収益	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
3. 一般正味財産増減額					
一般正味財産期首残高	303,490,954	303,490,954	301,275,969	0	2,214,985
一般正味財産期末残高	304,061,220	301,812,412	303,490,954	2,248,808	570,266
【指定正味財産増減の部】					
1. 高砂香料国際賞「野依賞」基金					
特定資産運用益計	4,000,034	4,000,400	4,000,030	▲ 366	4
特定資産受取利息	34	400	30	▲ 366	4
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	4,000,000	0	0
一般正味財産への振替額	▲ 2,923,959	▲ 4,000,000	▲ 2,808,089	1,076,041	▲ 115,870
当期指定正味財産増減額	1,076,075	400	1,191,941	1,075,675	▲ 115,866
指定正味財産期首残高	4,971,213	4,971,213	3,779,272	0	1,191,941
指定正味財産期末残高	6,047,288	4,971,613	4,971,213	1,075,675	1,076,075
2. Mukaiyama Award基金					
特定資産運用益計	105	1,500	121	▲ 1,395	▲ 16
特定資産受取利息	105	1,500	121	▲ 1,395	▲ 16
受取寄付金	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	▲ 1,645,388	▲ 1,600,000	▲ 1,501,546	▲ 45,388	▲ 143,842
当期指定正味財産増減額	▲ 1,645,283	▲ 1,598,500	▲ 1,501,425	▲ 46,783	▲ 143,858
指定正味財産期首残高	10,503,886	10,503,886	12,005,311	0	▲ 1,501,425
指定正味財産期末残高	8,858,603	8,905,386	10,503,886	▲ 46,783	▲ 1,645,283
【正味財産】					
正味財産期末残高	318,967,111	315,689,411	318,966,053	3,277,700	1,058

表 1・2 平成 30 年度正味財産増減内訳表(1/3)

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

科 目	公益目的事業会計				その他事業	法人会計	合 計
	公1・編集・出版	公2・研究会	公3・表彰	公益事業共通			
【一般正味財産増減の部】							
1. 経常増減の部							
経常収益計	14,041,354	36,363,701	12,378,396	54,796,770	3,360,890	16,837,293	137,778,404
特定資産運用益	3,042	2,544	809,049				814,635
編集出版特定資産受取利息	3,042						
研究会特定資産受取利息		2,544					
表彰特定資産受取利息			809,049				
退職特定資産受取利息						2,791	2,791
受取会費				54,796,770	2,080,890	12,485,340	69,363,000
個人会員費受取会費				28,947,970	1,099,290	6,595,740	36,643,000
法人会員費受取会費				23,423,500	889,500	5,337,000	29,650,000
団体会員費受取会費				126,400	4,800	28,800	160,000
学生会員費受取会費				2,298,900	87,300	523,800	2,910,000
事業収益	14,038,312	34,420,157	7,000,000		1,280,000		56,738,469
編集出版事業収益	14,038,312						14,038,312
会誌事業収益	4,156,400						4,156,400
広告事業収益	9,343,080						9,343,080
別冊事業収益	22,800						22,800
会誌関係雑収益	48,000						48,000
単行本印税収益	272,602						272,602
複写権使用料収益	195,430						195,430
研究会事業収益		34,420,157			180,000		34,600,157
シンポジウム事業収益		18,192,283					18,192,283
講習会事業収益		11,664,920					11,664,920
懇談会事業収益		4,562,954			180,000		4,742,954
見学会事業収益							
表彰事業収益			7,000,000		1,100,000		8,100,000
企業冠賞事業収益			7,000,000				7,000,000
研究企画賞事業収益					1,100,000		1,100,000
その他表彰事業収益							
寄付金収益		1,941,000	4,569,347			0	6,510,347
受取寄付金		1,941,000	4,569,347			0	6,510,347
雑収益						4,349,162	4,349,162
受取利息						834	834
雑収益						99,828	99,828
懇親会参加料収益						4,248,500	4,248,500

表 1・3 平成 30 年度正味財産増減内訳表(2/3)

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

科 目	公益目的事業会計				その他事業	法人会計	合 計
	公1・編集・出版	公2・研究会	公3・表彰	公益事業共通			
経常費用	46,428,095	52,057,862	18,545,770	0	3,199,619	16,976,792	137,208,138
事業費	46,428,095	52,057,862	18,545,770		3,199,619		120,231,346
編集出版事業費	27,140,641						27,140,641
印刷製本費	12,460,695						12,460,695
用紙費	4,061,016						4,061,016
原稿料・校正費	703,750						703,750
編集費	702,264						702,264
送達費	7,907,250						7,907,250
別冊作成費	282,474						282,474
電子出版費	1,023,192						1,023,192
研究会事業費		28,191,988			237,084		28,429,072
シンポジウム費		16,319,496					16,319,496
講習会費		5,081,661					5,081,661
懇談会費		3,715,544			237,084		3,952,628
見学会事業費							
研究会議費		130,337					130,337
事務委託費		2,529,498					2,529,498
支払寄付金		415,452					415,452
表彰事業費			12,791,851		79,335		12,871,186
表彰事業費			2,575,867				2,575,867
企業冠賞費用			5,646,637				5,646,637
研究企画賞費					79,335		79,335
国際賞費用			2,923,959				2,923,959
Mukaiyama Award事業費			1,645,388				1,645,388
給料手当	10,208,917	11,668,832	2,917,209		1,462,543		26,257,501
アルバイト費	949,644	1,085,447	271,362		136,047		2,442,500
退職給付費用	1,050,737	1,200,997	300,249		150,530		2,702,513
その他人件費（福利厚生費）	1,981,537	2,264,905	566,226		283,878		5,096,546
会議費	156,501	234,774	52,167		26,107		469,549
旅費交通費	776,528	1,164,907	258,843		129,538		2,329,816
通信費	319,798	479,745	106,599		53,348		959,490
什器備品費	62,272	93,418	20,757		10,388		186,835
事務用品・リース費	593,521	890,372	197,840		99,009		1,780,742
水道光熱費	64,432	96,659	21,477		10,748		193,316
事務所賃借料	1,310,125	1,965,384	436,708		218,551		3,930,768
雑費（税・手数料・会費・IT）	1,813,442	2,720,434	604,482		302,513		5,440,871

表 1・4 平成 30 年度正味財産増減内訳表(3/3)

(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)

科 目	公益目的事業会計				その他事業	法人会計	合 計
	公1・編集・出版	公2・研究会	公3・表彰	公益事業共通			
73 管理費						16,976,792	16,976,792
74 給料手当						2,917,490	2,917,490
75 退職給付費用						300,278	300,278
76 その他人件費(福利厚生費)						566,272	566,272
77 懇親会費用						8,184,436	8,184,436
78 会議費						412,442	412,442
79 旅費交通費						1,551,860	1,551,860
80 通信費						208,286	208,286
81 什器備品費						20,758	20,758
82 事務用品・リース費						197,854	197,854
83 水道光熱費						21,474	21,474
84 事務所賃借料						436,752	436,752
85 諸謝金						1,197,180	1,197,180
86 雑費(税・手数料・会費・IT)						961,710	961,710
87 当期経常増減額	▲ 32,386,741	▲ 15,694,161	▲ 6,167,374	54,796,770	161,271	▲ 139,499	570,266
88 2. 経常外増減の部							
89 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
90 計上外費用	0	0	0	0	0	0	0
91 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
92 3. 一般正味財産増減額							
93 一般正味財産期首残高							303,490,954
94 一般正味財産期末残高							304,061,220
95 当期一般正味財産増減額							570,266
96 【指定正味財産増減の部】							
97 1. 高砂香料国際賞「野依賞」基金							
98 指定正味財産運用益			1,076,075				1,076,075
99 特定資産受取利息			34				34
100 受取寄付金			4,000,000				4,000,000
101 一般正味財産への振替額			▲ 2,923,959				▲ 2,923,959
102 指定正味財産期首残高			4,971,213				4,971,213
103 指定正味財産期末残高			6,047,288				6,047,288
104 2. Mukaiyama Award基金							
105 指定正味財産運用益			▲ 1,645,283				▲ 1,645,283
106 特定資産受取利息			105				105
107 受取寄付金							
108 一般正味財産への振替額			▲ 1,645,388				▲ 1,645,388
109 指定正味財産期首残高			10,503,886				10,503,886
110 指定正味財産期末残高			8,858,603				8,858,603
111 【正味財産期末残高】							
112 正味財産期末残高							318,967,111

【参考】

表 1・5 主な科目の対予算・対前年度決算比較

科 目	30 年度予算との差額(千円)		29 年度決算との差額(千円)	
	収益	費用	収益	費用
受取会費収入	851	—	▲494	—
事業	編集・出版	▲1,075 <sup>*2</sup>	834	▲1,181 <sup>*2</sup>
	研究会	770 <sup>*1,3</sup>	▲1,495 <sup>*1</sup>	1,933 <sup>*3</sup>
	表彰	▲50	▲1,577	2,600 <sup>*4</sup>
法人運営関連	人件費		622	
	会議費・旅費・通信費		▲365	▲334
	事務費・諸運営費		▲91	▲123
	懇親会収入／費用	509	874	▲9
	雑収入／雑費	▲120	▲312	▲6
				819 <sup>*5</sup>

\*1 30 年度予算へ計上したが決算とは乖離のある以下のものを差し引いた。

1) 事業 ; 研究会 ; 海外視察団派遣事業および国内見学会事業は未実施。(収入/費用ともに 2,400 千円)

\*2 協会誌広告(30 年度対予算▲257 千円)、単行本印税(30 年度対予算▲727 千円)の収益減。

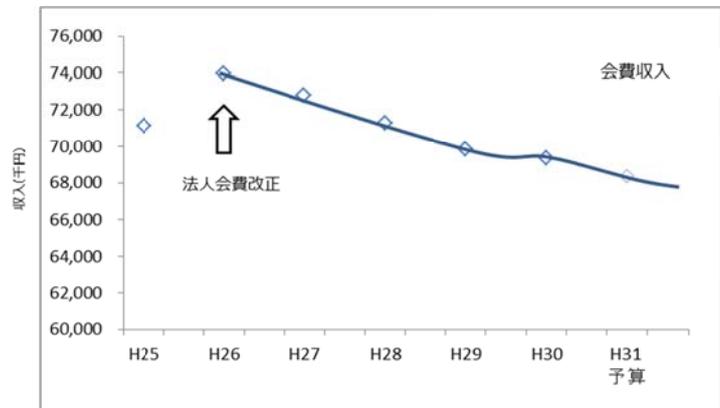
\*3 AI 研究部会(30 年度対予算 880 千円)、AI 公開講演会(30 年度対予算 301 千円)の収益増。

\*4 企業冠賞の賛同企業が 3 社から 5 社へ増加。

\*5 30 年度ホームページリニューアル費用(2,020 千円)を含む。

### 会費収入の経年変化

平成 28 年度までの会費減収は、主として個人・学生会員の退会によるものである。平成 29 年度同様に平成 30 年度の期首では法人会員の退会または等級の見直しによる減収が見込まれたが、関係各位の斡旋のご助力で昇級法人があったこと、また研究部会への参加を目的とする新規入会があり、法人会費の減収を抑えることができた。また、学生会員も有機合成シンポジウム（春）の地方開催やホームページの見直しによる利便性や効率性の向上が奏功し、平成 29 年度に続き会費がプラスに転じた(8 万円)。しかし、個人会員は引き続き減少が続き前年度比 59 万円の減収となった。



会員種別	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 予算
個人正会員	41,427	40,535	39,688	38,488	37,237	36,643	35,608
法人会員	26,200	30,259	30,190	29,967	29,630	29,650	29,850
学生会員	3,321	3,003	2,742	2,666	2,830	2,910	2,747
合計	71,108	73,957	72,780	71,281	69,857	69,363	68,365
前年との差	-1,555	2,849	-1,177	-1,499	-1,424	-494	-998

表 1・6 平成 30 年度貸借対照表

平成30年12月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	104,327,447	103,273,117	1,054,330
未収収益	68,582	267,914	▲ 199,332
前払金	275,101	658,715	▲ 383,614
仮払金	34,496	100,846	▲ 66,350
流動資産合計	104,705,626	104,300,592	405,034
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
編集出版事業特定資産	24,317,006	24,313,964	3,042
研究会事業特定資産	29,515,550	29,513,006	2,544
表彰事業特定資産	200,764,372	199,956,989	807,383
国際賞基金	6,047,288	4,971,213	1,076,075
Mukaiyama Award基金	8,858,603	10,503,886	▲ 1,645,283
退職給付引当特定資産	21,211,801	18,209,010	3,002,791
特定資産合計	290,714,620	287,468,068	3,246,552
(2) その他固定資産			
差入保証金	4,698,000	4,698,000	0
電話加入権	127,284	127,284	0
その他固定資産合計	4,825,284	4,825,284	0
固定資産合計	295,539,904	292,293,352	3,246,552
資産合計	400,245,530	396,593,944	3,651,586
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	572,584	577,571	▲ 4,987
前受金	57,763,200	57,511,800	251,400
預り金	1,615,784	1,278,184	337,600
仮受金	115,050	51,326	63,724
流動負債合計	60,066,618	59,418,881	647,737
2. 固定負債			
退職給付引当金	21,211,801	18,209,010	3,002,791
固定負債合計	21,211,801	18,209,010	3,002,791
負債合計	81,278,419	77,627,891	3,650,528
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国際賞受託金	6,047,288	4,971,213	1,076,075
Mukaiyama Award基金	8,858,603	10,503,886	▲ 1,645,283
指定正味財産合計	14,905,891	15,475,099	▲ 569,208
(うち特定資産への充当額)	(14,905,891)	(15,475,099)	(▲ 569,208)
2. 一般正味財産	304,061,220	303,490,954	570,266
正味財産合計	318,967,111	318,966,053	1,058
負債及び正味財産合計	400,245,530	396,593,944	3,651,586

表 1・7 平成 30 年度貸借対照表内訳表

平成30年12月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計			その他事業会計	法人会計	合計
	編集・出版事業会計	研究会事業会計	表彰事業会計			
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金					104,327,447	104,327,447
未収収益			68,582			68,582
前払金		63,856	74,994		136,251	275,101
仮払金					34,496	34,496
流動資産合計	0	63,856	143,576	0	104,498,194	104,705,626
2. 固定資産						
(1) 特定資産						
編集出版事業特定資産	24,317,006					24,317,006
研究会事業特定資産		29,515,550				29,515,550
表彰事業特定資産			200,764,372			200,764,372
国際賞基金			6,047,288			6,047,288
Mukaiyama Award 基金			8,858,603			8,858,603
退職給付引当特定資産					21,211,801	21,211,801
特定資産合計	24,317,006	29,515,550	215,670,263	0	21,211,801	290,714,620
(2) その他固定資産						
差入保証金					4,698,000	4,698,000
電話加入権					127,284	127,284
その他固定資産合計	0	0	0	0	4,825,284	4,825,284
固定資産合計	24,317,006	29,515,550	215,670,263	0	26,037,085	295,539,904
資産合計	24,317,006	29,579,406	215,813,839	0	130,535,279	400,245,530
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金					572,584	572,584
前受金					57,763,200	57,763,200
預り金					1,615,784	1,615,784
仮受金					115,050	115,050
流動負債合計	0	0	0	0	60,066,618	60,066,618
2. 固定負債						
退職給付引当金					21,211,801	21,211,801
固定負債合計	0	0	0	0	21,211,801	21,211,801
負債合計	0	0	0	0	81,278,419	81,278,419
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
国際賞受託金			6,047,288			6,047,288
Mukaiyama Award 基金			8,858,603			8,858,603
指定正味財産合計			14,905,891			14,905,891
(うち特定資産への充当額)			(14,905,891)			(14,905,891)
2. 一般正味財産	24,317,006	29,579,406	200,907,948	0	49,256,860	304,061,220
正味財産合計	24,317,006	29,579,406	215,813,839	0	49,256,860	318,967,111
負債及び正味財産合計	24,317,006	29,579,406	215,813,839	0	130,535,279	400,245,530

表 1・8 附属明細書

(単位：円)

## 1. 特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	編集出版事業特定資産	24,313,964	3,042	0	24,317,006
	研究会事業特定資産	29,513,006	2,544	0	29,515,550
	表彰事業特定資産	199,956,989	807,383	0	200,764,372
	国際賞基金	4,971,213	4,000,034	2,923,959	6,047,288
	Mukaiyama Award 基金	10,503,886	105	1,645,388	8,858,603
	退職給付引当特定資産	18,209,010	3,002,791	0	21,211,801
	特定資産計	287,468,068	7,815,899	4,569,347	290,714,620

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	18,209,010	3,002,791	0	0	21,211,801

表 1・9 財産目録

平成30年12月31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等		使用目的等	金額 (円)
1 【流動資産】				
2 預金	振替貯金		運転資金	1,896,262
3	普通預金	みずほ銀行神田支店	運転資金	64,699,631
4	普通預金	みずほ銀行神田支店	運転資金	2,679,772
5	普通預金	みずほ銀行神田支店	運転資金	50,001
6	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	運転資金	2,254,377
7	普通預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運転資金	144,234
8	普通預金	北海道支部	運転資金	3,636,501
9	普通預金	東北支部	運転資金	7,781,383
10	普通預金	関東支部	運転資金	9,389,303
11	普通預金	東海支部	運転資金	1,880,358
12	普通預金	関西支部	運転資金	5,138,499
13	普通預金	中国四国支部	運転資金	1,694,587
14	普通預金	九州山口支部	運転資金	3,082,539
15	未収収益			68,582
16	前払金			275,101
17	仮払金	現金	手元保管	34,496
18			運転資金	
19 流動資産合計				104,705,626
20 【固定資産】				
21 特定資産				
22 編集事業特定資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を編集・出版事業の財源として使用している	2,090,723
23	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を編集・出版事業の財源として使用している	2,226,283
24	定期預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を編集・出版事業の財源として使用している	10,000,000
25	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を編集・出版事業の財源として使用している	10,000,000
26 研究会事業特定資産	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を研究会事業の財源として使用している	4,515,550
27	定期預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を研究会事業の財源として使用している	25,000,000
28 表彰事業特定資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	1,703,155
29	普通預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	6,061,217
30	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	3,000,000
31	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	20,000,000
32		第326回利付国債	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	100,000,000
33		東京都公募公債第786回	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	50,000,000
34		千葉県平成29年度第3回公募公債	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	20,000,000
35 退職給付引当資産	普通預金	三井住友信託銀行本店営業部		2,551,801
36	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部		18,660,000
37 国際賞基金	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	6,047,288
38 Mukaiyama Award基金	普通預金	みずほ銀行神田支店	公益目的保有財産であり、運用益を表彰事業の財源として使用している	8,858,603
39 その他固定資産	差入保証金			4,698,000
40	電話加入金			127,284
41 固定資産合計				295,539,904
42 資産合計				400,245,530
43 【流動負債】				
44 未払金				572,584
45 前受金				57,763,200
46 預り金				1,615,784
47 仮受金				115,050
48 流動負債合計				60,066,618
49 【固定負債】				
50 退職給付引当金				21,211,801
51 固定負債合計				21,211,801
52 負債合計				81,278,419
53 正味財産				318,967,111

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券 償却原価法（定額法）

(2) 固定資産の減価償却の方法

法人税法に基づき一定額以下は費用処理している。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

ファイナンスリース：リース物件の所有権が借主に移転するを認められる以外のファイナンスリース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

### 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
編集出版事業特定資産	24,313,964	3,042	0	24,317,006
研究会事業特定資産	29,513,006	2,544	0	29,515,550
表彰事業特定資産	199,956,989	807,383	0	200,764,372
国際賞基金	4,971,213	4,000,034	2,923,959	6,047,288
Mukaiyama Award 基金	10,503,886	105	1,645,388	8,858,603
退職給付引当特定資産	18,209,010	3,002,791	0	21,211,801
合 計	287,468,068	7,815,899	4,569,347	290,714,620

### 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
編集出版事業特定資産	24,317,006	0	24,317,006	
研究会事業特定資産	29,515,550	0	29,515,550	
表彰事業特定資産	200,764,372	0	200,764,372	
国際賞基金	6,047,288	6,047,288	0	
Mukaiyama Award 基金	8,858,603	8,858,603	0	
退職給付引当特定資産	21,211,801	0	0	21,211,801
合 計	290,714,620	14,905,891	254,596,928	21,211,801

### 4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
国債	100,000,000	103,364,500	3,364,500
地方債	70,000,000	70,429,240	429,240
合 計	170,000,000	173,793,740	3,793,740

### 5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
国際賞事業費計上による振替額	2,923,959
Mukaiyama Award 事業費計上による振替額	1,645,388
合 計	4,569,347

第2号議案 平成31年度役員選任の件

本総会の終結をもって役員11名が退任となるので、定款23条に定めるところにより、役員候補者選出委員会において選出された役員候補者(表2)を参考にして、退任役員の後任として新任および重任役員(理事・監事；太字表記15名)を選任する。

表2 平成30年度役員および平成31年度役員候補者対照表(敬称略)

役職区分	平成31年度				
	平成30年度(参考)		新任候補	重任候補	所属
	退任	留任			
会長・代表理事	吉田 潤一		<b>諫山 滋</b>		三井化学(株)
副会長・業務執行理事		砂塚 敏明			北里大学
副会長・業務執行理事		田上 克也			エーザイ(株)
副会長・業務執行理事	山川 一義			<b>秋山 隆彦</b>	学習院大学
常務理事(事務局長)				<b>岡村 真延</b>	有機合成化学協会
理事(編集担当)		垣内 史敏			慶應義塾大学
理事(編集担当)	菅 敏幸		<b>西川 俊夫</b>		名古屋大学
理事(事業担当)		柳澤 章			千葉大学
理事(事業担当)			<b>竹之内 一弥</b>		帝人ファーマ(株)
理事		生頼 一彦			日産化学(株)
理事		佐用 昇			高砂香料工業(株)
理事		設楽 永紀			Meiji Seika ファルマ(株)
理事		満田 勝			(株)カネカ
理事				<b>林 亮司</b>	東レ(株)
理事	市川 淳士		<b>草間 博之</b>		学習院大学
理事			<b>袖岡 幹子</b>		理化学研究所
理事(北海道支部)	佐藤 美洋		<b>大熊 毅</b>		北海道大学
理事(東北支部)		林 雄二郎			東北大学
理事(関東支部)		須貝 威			慶應義塾大学
理事(関東支部)	松村 靖		<b>大和田 智彦</b>		東京大学
理事(東海支部)	岩佐 精二		<b>村井 利昭</b>		岐阜大学
理事(関西支部)		大江 浩一			京都大学
理事(関西支部)	笹井 宏明		<b>西山 豊</b>		関西大学
理事(中国四国支部)	宇野 英満		<b>菅 誠治</b>		岡山大学
理事(九州山口支部)		大嶋 孝志			九州大学
監事		辻 尚志			(株)ニイタカ
監事	加藤 昌宏		<b>岩澤 伸治</b>		東京工業大学
監事	高井 和彦		<b>山川 一義</b>		富士フイルム(株)
人数	11	13	12	3	

### 第3号議案 名誉会員委嘱の件

定款第5条第5項および名誉会員の委嘱に係る内規2の2に定めに基づき、以下の会員に名誉会員を委嘱する。本案は平成30年12度理事会で名誉会員としての推薦を決議した。

表3・1 平成31年度名誉会員推挙候補者（年齢順、敬称略）

氏名（年齢）	生年月日	称号・勤務先	推挙の事由
山本 嘉則（76）	1942.11.21	東北大学名誉教授	平成30年度特別賞授賞
福山 透（70）	1948.08.09	東京大学名誉教授	会長 平成21-22年度

#### 定款第5条第5項

名誉会員はこの法人に特に功労のあった個人で、理事会が推薦し、かつ総会の承認を経たものとする。

#### 名誉会員の委嘱に係る内規2の2

次の各項に該当する者は理事会の推薦および総会の議決により、会長が名誉会員に委嘱する。

- (1) 会長ならびに会長経験者であって、総会開催当日満70歳に達している者
- (2) 本会特別賞受賞者であって、総会開催当日満70歳に達している者
- (3) 本会特別賞受賞者であって、会長経験者
- (4) ノーベル賞またはこれに匹敵する業績を有し、わが国の有機合成化学の発展に寄与した者

#### 【参考】

表3・2 名誉会員一覧（平成31年2月14日現在、委嘱年月日順、敬称略）

No.	氏名	勤務先役職 or 称号(委嘱当時)	委嘱年月日	生年月日	会長	特別賞
1	野崎 一	京都大学名誉教授	1993.02.16	1922.01.01	85-86	1992
2	E. J. Corey	ハーバード大学教授	1993.02.16	1928.07.12		ノーベル賞
3	辻 二郎	東京工業大学名誉教授	2000.02.22	1927.05.11		1998
4	野依 良治	理化学研究所理事長	2002.02.19	1938.09.03	97-98	2000
5	吉田 善一	京都大学名誉教授	2003.02.18	1925.08.19		2001
6	森 謙治	東京大学名誉教授	2004.02.18	1935.03.21	93-94	2002
7	鈴木 章	北海道大学名誉教授	2005.02.24	1930.09.12		2003
8	平岡 哲夫	元三共有機合成(株)代表取締役社長	2006.02.23	1935.08.05	03-04	
9	村井 眞二	大阪大学名誉教授	2006.02.23	1938.08.24	01-02	2004
10	村橋 俊一	大阪大学名誉教授	2008.02.20	1937.05.12		2006
11	岸 義人	ハーバード大学名誉教授	2010.02.19	1937.04.13		2009
12	中井 武	東京工業大学名誉教授	2011.02.18	1940.08.30	05-06	
13	根岸 英一	パデュー大学特別教授	2011.02.18	1935.07.14		ノーベル賞
14	白濱 晴久	北海道大学名誉教授	2012.02.17	1930.06.28		2011
15	竜田 邦明	早稲田大学名誉教授・荣誉フェロー	2013.02.19	1940.12.01		2012
16	玉尾 皓平	京都大学名誉教授	2014.02.20	1942.10.31		2013
17	山本 尚	シカゴ大学名誉教授	2014.02.20	1943.07.16		2013
18	迫田 良三	元日産化学工業(株)副社長	2014.02.20	1943.08.24	07-08	
19	大村 智	北里大学特別栄誉教授	2016.02.18	1935.07.12		ノーベル賞
20	桑嶋 功	東京工業大学名誉教授	2016.02.18	1937.11.11		2015
21	蘭頭 健吉	大阪市立大学名誉教授	2017.02.16	1931.12.05		2016
22	中西 香爾	コロンビア大学名誉教授	2018.02.15	1925.05.01		2017

#### 第4号議案 会費の改定の件

定款第7条および会員規程第8条に定めるところにより、学生会員の会費を改定し、会員規程の会費条項（第6条第4項）を以下のように変更する。（下線部分が改定部分）

第6条 会員は、会員種別に応じて以下に定める年会費を当該年度が始まるまでに前納するものとする。

- (4) 学生会員 5,000 円  
ただし、協会誌電子版のみを希望する場合は 3,500 円

#### その他

議案があれば挙手の上、提議してください。

#### 【報告事項】

報告1 平成30年度事業報告（平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）

##### 1. 平成30年度通常総会(第81回)

- ✓ 平成30年2月15日 如水会館にて開催
- ✓ 構成員(代議員)99名中、出席者97名(本人出席22；代理人出席0；委任状・書面表決75)
- ✓ 決議事項
  - 第1号議案 『平成29年度決算報告承認』の件
  - 第2号議案 『平成30年度役員選任』の件
  - 第3号議案 『名誉会員委嘱』の件
- ✓ 報告事項
  - 報告1. 『平成29年度事業報告』
  - 報告2. 『平成30年度事業計画報告』
  - 報告3. 『平成30年度収支予算報告』
  - 報告4. 『永年会員昇格者報告』

## 2. 会員動向

表4 会員数動向

区分	H29末	入会	復活	退会	区分変更	異動計	H30末	
普通会員	個人	3,719	84	4	▲244	62 ▲10	▲104	3,615
	法人	218	7		▲3		4	222
	団体	3					0	3
普通会員計	3,940	91	4	▲247	62 ▲10	▲100	3,840	
永年会員	220			▲15	10	▲5	215	
名誉会員	23	1		▲2		▲1	22	
学生会員	616	245		▲138	▲62	45	661	
合計	4,799	337	4	▲402		▲61	4,738	

## 3. 事業報告

平成30年度に実施した編集出版、研究会、および表彰の各事業について、表5のとおり報告する。

### 公1・編集出版事業(15頁)

#### 公2・研究会事業

##### シンポジウム

本部(15頁)

北海道支部(16頁)

東北支部(16頁)

関東支部(18頁)

東海支部(18頁)

関西支部(19頁)

中国四国支部(19頁)

九州山口支部(20頁)

##### 講習会

本部(20頁)

東北支部(21頁)

関西支部(21頁)

##### 懇談会

本部(21頁)

北海道支部(22頁)

関東支部(22頁)

東海支部(23頁)

関西支部(23頁)

中国四国支部(24頁)

九州山口支部(25頁)

##### 見学会

実施なし

### 公3・表彰事業

有機合成化学特別賞(25頁)

有機合成化学協会賞・奨励賞(25頁)

Mukaiyama Award(26頁)

Lectureship Award(26頁)

企業冠賞(26頁)

高砂香料国際賞「野依賞」(26頁)

支部表彰 関西支部(27頁)

中国四国支部(27頁)

九州山口支部(27頁)

### 他1・共益事業

ゆうごう会(27頁)

研究企画賞(27頁)

表 5・1 平成 30 年度事業報告 (その 1)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
公1・編集出版事業	
有機合成化学協会誌	
<p>第 76 巻第 1 号～12 号(12 冊)、発行部数 5,400 部(除く第 11 号)、5,600 部(第 11 号)、総頁数 1,538                      普通号 10 回；特集号(第 5 号「天然物化学はおもしろい！－現場からの声－」；第 11 号 Special Issue in English)                      掲載内容：巻頭言 12 頁(12 件)、総説 79(7)、総合論文 793(94)、Review de Debut 47(23)、ラウンジ 71(8)、ケミカルズ覚え書き 0(0)、十字路 11(44)、新企画（「感動の瞬間」；「MyPR」）35(11)、新しい合成 52(209)、会告・協会記事等 225、広告 148                      新企画「感動の瞬間」、「Message from Young Principal Researcher (MyPR)」の掲載を開始。                      (独)科学技術振興機構が運用する電子ウェブサイト(J-STAGE)に 2018 年度分を掲載。</p>	
単行本の編集・出版	
該当なし	
公1 関連会議	
有機合成化学協会誌編集委員会(1/19, 3/16, 5/25, 7/24, 9/11,12/5)	
公2・研究会事業	
シンポジウム【本部】	
<p>第 113 回有機合成シンポジウム；6/6～6/7；名古屋大学坂田・平田ホール                      口頭研究発表 35 件；ポスター発表 69 件 合計 104 件；優秀ポスター賞 7 件表彰                      受賞講演 2 件【平成 29 年度有機合成化学協会・企業冠賞受賞講演】                      1. [シオノギ・低分子創薬化学賞]                      生物活性天然物の効率的合成のための新合成法論の開発（名大院生命農）西川俊夫                      2. [東ソー・環境エネルギー賞]                      有機分子の触媒的脱水素化を基軸とする効率的有機合成ならびに水素貯蔵・水素製造（京大院人間・環境）藤田健一                      共催：日本化学会；日本薬学会 協賛：日本農芸化学会</p>	212(116)
<p>第 114 回有機合成シンポジウム；11/6～11/7；早稲田大学国際会議場                      口頭・ポスター発表 40 件；ポスター発表 12 件 合計 52 件；優秀ポスター賞 5 件表彰                      受賞講演 3 件【平成 29 年度有機合成化学協会・企業冠賞受賞講演】                      1. [第一三共・創薬有機化学賞]                      有機イオン対触媒の設計と機能創出（名大院工）大井貴史                      2. [日産化学・有機合成新反応／手法賞]                      イリジウムならびにロジウム触媒を駆使した効率的分子変換法の創出（早大理工）柴田高範                      3. [富士フイルム・機能性材料化学賞]                      大環状芳香族分子を活用した多能材料開発（東大院理）磯部寛之                      共催：日本化学会；日本薬学会 協賛：日本農芸化学会 後援：早稲田大理工学術院総合研究所</p>	194(87)
<p>第 51 回酸化反応討論会；11/1～11/2；九州大西新プラザ                      招待講演 2 件、一般口頭発表 20 件、ポスター発表 42 件                      主催：第 51 回酸化反応討論会実行委員会                      共催：有機合成化学協会、日本化学会、日本薬学会、錯体化学会、触媒学会、九州大学先端物質化学研究所 協賛：日本農芸化学会</p>	109(42)
<p>第 48 回複素環化学討論会；9/3～9/5；長崎ブリックホール国際会議場／長崎新聞文化ホール                      一般口頭発表 55 件、ポスター発表 125 件                      主催：第 48 回複素環化学討論会実行委員会                      共催：有機合成化学協会、日本化学会、日本薬学会 協賛：日本農芸化学会</p>	348(150)
<p>第 51 回有機金属若手の会・夏の学校；7/2～7/4；レイクフォレストリゾート(京都)                      招待講演 3 件、依頼講演 7 件、若手講演 2 件、ポスター発表 126 件                      主催：有機金属若手研究者の会                      共催：有機合成化学協会、近畿化学協会有機金属部会 協賛：日本化学会</p>	191(174)

表 5・2 平成 30 年度事業報告 (その 2)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
シンポジウム【北海道支部】	
<p>第 30 回万有札幌シンポジウム ; 7/7 ; 北海道大学 招待講演 5 件、ポスター発表 20 件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.機能性分子低次元系のボトムアップ創製 (東大院理) 坂本良太</li> <li>2.保護基・活性化基に頼らない直接触媒反応 (九大院薬) 大嶋孝志</li> <li>3.環状 <math>\pi</math> 共役分子の新しい有機化学 (京大化研) 山子茂</li> <li>4.キラリな遷移金属錯体の不斉合成と応用 (徳島大院社会産業理工) 小笠原正道</li> <li>5.協奏機能型不斉触媒が拓く環境調和型医薬合成 : 30 年前の北大が出発点 (微化研) 柴崎正勝</li> </ol> <p>主催 : 万有札幌シンポジウム組織委員会 共催他団体:北海道大学大学院工学研究院フロンティア化学教育研究センター、日本化学会北海道支部</p>	360(300)
<p>日本化学会北海道支部 2018 年 夏季研究発表会 ; 7/21 ; 北見工業大学 特別講演 2 件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ナノ粒子集積体のボトムアップアプリケーションとバイオ・フォトニクスへの応用 (北海道大学電子科学研究所・北海道大学国際連携研究教育局) 居城邦治</li> <li>2.世界の化学会を目指して (日本化学会会長・自然科学研究機構 分子科学研究所) 川合眞紀</li> </ol> <p>一般口頭発表 102 件 主催 : 日本化学会北海道支部 共催他団体 : 北見工業大学、日本分析化学会・高分子学会・触媒学会・日本エネルギー学会・石油学会の各北海道支部、日本セラミックス協会東北・北海道支部</p>	165(96)
<p>若手研究者のための有機化学札幌セミナー ; 11/8 ; 北海道大学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.触媒の特性を活かした化学選択的反応の開発 (北大院理) 清水洋平</li> <li>2.エラジタンニンの合成研究と新規グリコシル化反応の開発への挑戦 (北大院理) 池内和忠</li> <li>3.高原子価ロジウム・コバルト触媒による不斉 C-H 活性化反応 (北大院薬) 吉野達彦</li> <li>4.発光色変化や機械的応答を示す外部刺激応答性金錯体 (北大院工) 関朋宏</li> <li>5.<math>\alpha</math>-プロモカルボニル化学の世界 (山口大院創成科学) 西形孝司</li> </ol> <p>以上の 5 名の演者による招待講演 主催 : 有機合成化学協会北海道支部 ; 共催 : 有機合成化学協会</p>	193(162)
シンポジウム【東北支部】	
<p>第 29 回万有仙台シンポジウム ; 6/9 ; 仙台国際センター</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.アミドを PlayGround とした反応設計 (微化研) 熊谷直哉</li> <li>2.有機化学で複合糖質研究に挑む (九大院薬) 平井剛</li> <li>3.生理活性天然物の迅速合成・骨格変化の新戦略 (東農工大院工) 大栗博毅</li> <li>4.生体分子の構造変換ダイナミズムへの人的介入を目指した触媒研究 (東大院薬) 金井求</li> <li>5.医療応用を目指した核酸の機能的再インストール (名大院工) 浅沼浩之</li> </ol> <p>主催 : 万有仙台シンポジウム組織委員会</p>	326(224)
<p>第 1 回女性研究者シンポジウム 6 月 8 日(金)東北大学片平キャンパス</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.新規な有機ヘテロ元素化合物の遷移金属触媒合成と機能 (東北大院薬) 有澤美枝子</li> <li>2.ヘテロ環化学～有機触媒からケミカルバイオロジーへ～ (上智大理工) 鈴木由美子</li> <li>3.生き物との触れ合いから見つかる化学 (慶大理工) 犀川陽子</li> <li>4.遷移金属-ケイ素/ゲルマニウム多重結合錯体の合成とその不飽和有機分子との反応 (東北大院理) 橋本久子</li> </ol> <p>主催 : 東北大学薬学研究科 ; 共催 : 東北大学男女共同参画推進センター(TUMUG)</p>	77(57)
<p>仙台地区春の講演会 ; 6/16 ; 東北大学大学院理学研究科</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.光学活性なヒドロキシキノリンを有する新薬の実用的製法の開発 (田辺三菱製薬) 大島正裕</li> <li>2.安定結合の活性化を活用する有機合成反応の開発 (中央大) 檜山爲次郎</li> <li>3.創薬から商用生産まで : 薬づくりの過去、現在そして未来 (武田薬品工業) 三輪哲生</li> </ol>	126(92)
<p>化学系学協会東北大会 ; 9/15～9/16 ; 秋田大学手形キャンパス 【特別講演】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.分野融合・異分野協力で化学に新しい感性を (日本化学会, 自然科学研究機構分子研) 川合眞紀</li> <li>2.多孔性錯体材料(MOP/PCP)の化学とその応用 (京大高等研究院) 北川進</li> </ol>	540(325)

表 5・3 平成 30 年度事業報告 (その 3)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>前ページからの続き            3.ペロブスカイト太陽電池における化学／物理の学祭研究の現状と将来 (桐蔭横浜大医工) 宮坂力  <b>【有機系講演】</b>            有機化学セッション            「Controlled Synthesis of New Polyolefins by Pd-Catalyzed Isomerization Polymerization」            (弘前大理工) 竹内大介            「Synthetic Study for Analogs of Bioactive Natural Products, Butenolides and Coumarins」            (岩手医大薬) 田村理            「得意な構造を有する芳香族天然物の全合成研究」(秋田大院理工) 藤原憲秀            「疾患関連核酸高次構造を標的とした反応性プローブの開発」(東北大多元研) 永次史            有機化学コロキウム            「クイックケミストリー制御による自在な分子連結法の開発」(東京医歯大生材研) 吉田優            「立体効果を利用した新しいアルキン化学」(九大先導研) 井川和宣            「Chemical reactions accelerated on nucleic acids and their applications」(東北大多元研)            鬼塚和光            「 Guanin 4 重鎖のケミカルバイオロジー研究」(東農工大院工) 長澤和夫            その他講演 43 件 ; ポスター発表 277 件            共催 : 日本化学会, 高分子学会, 日本分析化学会, 化学工学会, 電気化学会, 日本材料学会の各            東北支部, 繊維学会東北北海道支部, 無機マテリアル学会北部支部</p>	
<p>第 33 回有機合成化学若手研究者の仙台セミナー ; 11/10 ; 東北大学大学院薬学研究科            1.「(-)-Dehydrobatzelladine C の全合成」(東北大院薬) 丸茂和哉            2.「放線菌由来ポリエンマクロラクタム 8-デオキシヘロナミド C の収束的全合成」(東北大院薬) 寺島隆世            3.「アルミニウム Lewis 酸と 2,6-ジプロモピリジンを用いた酸クロリドによるアルケン類のアシル化」(東北大院            工) 國澤主            4.「二つの第二級アミン触媒を用いた不斉マイケル反応の開発及び反応機構解明」(東北大院理) 榎窪成祥            5.「転位型エルゴスタン骨格を有するストロファステロール類の全合成」(東北大院農) 佐藤俊太郎            6.「デオキシ糖を原料とした炭素五員環の創製と有用化合物への応用」(東北大多元研) 神島亮明            7.「生物活性新奇鎖状ペプチド JBIR-126 の全合成」(東北大院薬) 大山皓介            8.「不飽和ケイ素を含むケイ素クラスターの骨格変換反応」(東北大院理) 横内優来            9.「Grubbs 触媒を用いたアミンの酸化反応の開発とアシスト型タンデム触媒反応への応用」(東北大院            薬) 河内大知            10.「凝集誘起発光を示す 1,1,2,2-テトラキス(5-アリール-2-チエニル)エチレン誘導体の合成」(岩手大理            工) 村岡宏樹            11.「F10BINOL を不斉源としたキラルリン酸触媒による不斉カルボニル-エン反応の開発と立体制御機構解            明」(東北大院理) 菊池隼            12.「環状ポルフィリン(2.1.2.1)多量体の合成と物性」(岩手大理工) 葛原大軌</p>	152(123)
<p>第 35 回有機合成化学セミナー ; 9/18~20 ; ほほえみの宿滝の湯(山形県天童市)  <b>【招待講演 8 件】</b>            1.水中における無保護糖からの一段階グリコシル化反応 (東北大院工) 正田晋一郎            2.触媒の発見から産学連携による実用化、触媒研究の未来 (産総研) 佐藤一彦            3.生理活性脂質と化合物オリエン特創薬 (小野薬品工業) 丸山透            4.複雑な多環性アルカロイド類の全合成研究 (徳島大院医歯薬) 難波康祐            5.IoT/次世代パワエレに貢献する秘伝の外『新規溶剤群セルトール』(ダイセル) 赤井泰之            6.含硫黄 <math>\pi</math> 電子系の化学の新展開 (名大院理) 深澤愛子            7.つる巻き状分子不斉の創出と応用 (神戸大院工) 森敦紀            8.多様性拡大抽出物を利用したケミカルライブラリーの拡充 (東北大院医) 大島吉輝  <b>【Lecture Ship 受賞講演 1 件】</b>            1.Chemical Synthesis of Secondary Metabolites (The Scripps Research Institute, 米国)            Ryan A. Shenvi</p>	212(95)

表 5・4 平成 30 年度事業報告 (その 4)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>前ページからの続き</p> <p>【Mukaiyama Award 受賞講演 2 件】</p> <p>1.Iterative assembly strategies for the programmable synthesis of complex organic molecules (Eidgenössische Technische Hochschule Zürich, スイス) Jeffrey W. Bode</p> <p>2.不活性結合の触媒的変換反応 (阪大院工) 鳶巣守</p> <p>【奨励賞受賞講演 5 件】</p> <p>1.有機分子の潜在的反応性を活用した高次構造天然物の全合成研究 (東工大理) 安藤吉勇</p> <p>2.可視光フォトレドックス触媒作用を基盤としたラジカル的官能基化法の開発 (東工大科技創成研) 小池隆司</p> <p>3.ユビキタス金属触媒を利用した化学変換反応の開発 (広島大院工) 米山公啓</p> <p>4.ルテニウム-プロトン協働触媒による Tsuji-Trost 反応の新展開 (名大物質国際研セ) 田中慎二</p> <p>5.α-プロモカルボニルを第 3 級アルキル源とする多彩な合成化学 (山口大院創成科学) 西形孝司</p> <p>ポスター発表 88 件</p> <p>共催: 有機合成化学協会本部</p>	
シンポジウム【関東支部】	
<p>第 75 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(千葉大シンポジウム); 5/20</p> <p>千葉大学西千葉キャンパス</p> <p>特別講演 2 件、一般研究講演 48 件</p> <p>1.遷移金属錯体触媒を用いた芳香環構築法の新展開 (東工大物質理工) 田中健</p> <p>2.多環性天然物合成への挑戦 (千葉大院薬) 西田篤司</p> <p>[若手講演賞] 4 件表彰</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会、千葉大学</p>	148(76)
<p>第 76 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(新潟・長岡シンポジウム); 12/1~12/2;</p> <p>長岡技術科学大学</p> <p>特別講演 3 件、一般研究講演 71 件</p> <p>1.機能性大環状化合物群の創成 (岡山大院自然科学) 依馬正</p> <p>2.フッ素のもたらす機能と新薬開発への応用 - 含フッ素プロスタノイドの創製 - (AGC) 松村靖</p> <p>3.タンパク質の部位特異的修飾とがん治療への展開 (東工大化生研) 中村浩之</p> <p>[若手講演賞] 7 件表彰</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会 後援: 長岡技術科学大学</p>	169(84)
<p>若手研究者のためのセミナー; 8/4; 東京大学薬学系総合研究棟 2 階講堂; 講演 6 件</p> <p>1.リン原子に秘められた特性を引き出して活用する合成化学的手法の開拓 (東京医歯大生材研) 西山義剛</p> <p>2.特異な構造特性および集合構造を有する高分子の合成と機能 (東工大化生研) 石割文崇</p> <p>3.光と触媒が可能にするアシルシランの合成化学への活用 (学習院大理) 石田健人</p> <p>4.パラジウム触媒によるカルボン酸誘導体の多彩分子変換 (東京理大理工) 荻原陽平</p> <p>5.元素の特性を活かしたエーテル環合成法の開発と海洋産ポリエーテル系天然物の合成研究 (東京農大生命科学) 齊藤竜男</p> <p>6.ナフトキノンの光酸化還元反応を活用したスピロキン類の全合成研究 (東工大理) 安藤吉勇</p>	103(67)
シンポジウム【東海支部】	
<p>有機合成セミナー; 6/30; 岐阜大学</p> <p>1.糖鎖に細工をする有機化学 (九大院薬) 平井剛</p> <p>2.フロー合成先進地を目指して - 地方公設試験機関の取り組み - (和歌山県工技セ) 森一</p> <p>3.天然物の効率的合成のための新合成方法論の開発 (名大院生命農) 西川俊夫</p>	82(53)
<p>若手研究者のためのセミナー; 7/14; 中部大学名古屋キャンパス</p> <p>【支部奨励賞受賞講演】</p> <p>1.二官能性テトラアリアルホスホニウム塩触媒の開発 (信州大工) 戸田泰徳</p> <p>2.パラジウム触媒を用いる位置選択的反応の開発と多置換芳香族化合物類の合成への展開 (静岡県大薬) 山口深雪</p>	67(51)

表 5.5 平成 30 年度事業報告 (その 5)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>前ページからの続き 【招待講演】 1.精密重合と機能性高分子の精密合成:有機合成化学と高分子化学との接点と協奏(中部大総合工) 澤本光男 2.ルイス酸からペプチド合成に(中部大分子触媒研セ) 山本尚</p>	
<p>第 49 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会特別討論会; 11/3~11/4; 名古屋大学 【特別討論会】「有機化学の挑戦」 &lt;依頼講演&gt; 1.精密合成で拓く糖鎖の異分野融合研究(岐阜大 生命の鎖統合研セ) 安藤弘宗 2.ベンゼンをフェノールに変換するバイオ触媒系の開発(名大院理) 荘司長三 3.特殊反応場における触媒的有機合成(静岡大院工) 間瀬暢之 4.高反応性 13 族元素化合物の合成と反応性(名大院工) 山下誠 &lt;招待講演&gt; 1.ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成法への挑戦(東大院工) 西林仁昭 2.協働金属触媒による有機合成反応(京大院工) 中尾佳亮 共催: 日本化学会、高分子学会、化学工学会、日本農芸化学会、日本油化学会、日本薬学会など</p>	529(301)
<p>総合講演会; 12/14; 三重大学 1.新規不斉触媒の創製と四置換不斉炭素構築への挑戦(名工大院工) 中村修一 2.不均一系触媒が拓く連結・連続フロー有機合成:基礎反応開発からファインケミカルズ製造へ(東大 GSC 社会連携講座) 石谷暖郎</p>	44(40)
シンポジウム【関西支部】	
<p>有機合成化学北陸セミナー; 9/13~9/14; 金太郎温泉(富山県魚津市) 【特別講演 3 件】 1.閉殻および開殻窒素活性種による複素環合成(京大院工) 大江浩一 2.非中心不斉化合物を基盤とする精密有機合成(阪府大院理) 神川憲 3.医薬品の実践プロセス化学~ルートスカウティング・反応開発・スケールアップ~(大日本住友製薬) 鬼頭真 一般研究発表 12 件; ポスター発表 48 件 共催: 日本化学会、日本薬学会</p>	182(138)
<p>第 38 回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」; 8/7; 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 1.グルコースのピラノース環は柔らかいかも(関西学院大理工) 山田英俊 2.クロスカップリング反応による第四級炭素構築手法(阪大院工) 岩崎孝紀 3.連続ヘテロ原子が関与するアミドの化学(神戸薬大) 武田紀彦 4.イリジウム触媒を使った高原子効率型付加反応(阪市大院理) 西村貴洋 5.ケミストが挑んだ新薬創製の道のり(東和薬品/大地化成) 内川治 6.高周期典型元素を含む新規な <math>\pi</math> 電子系の創出(京大化研) 時任宣博 ポスター発表 102 件 共催: 日本薬学会</p>	247(178)
シンポジウム【中国・四国支部】	
<p>若手研究者のためのセミナー(第 34 回若手化学者のための化学道場); 9/13~9/14; サンピアセリーズ; 世話人: 西脇永敏 【特別指南講演】 有機合成研究の醍醐味-モノづくりはヒトづくり(高知大名誉) 小槻日吉三 【師範講演】 1.含窒素 <math>\pi</math> 共役分子からなる硬い、柔らかい機能性材料(香川大工) 磯田恭佑 2.複雑な多環性アルカロイド類の全合成(徳島大院医歯薬) 難波康祐 3.Pd 触媒を用いた 1,3-ジチオール環を有する新規 <math>\pi</math> 共役系化合物の合成(愛媛大院理工) 吉村彩 4.アセチレン誘導体の簡略化合成法の開発と有機材料創製への応用(岡山理大工) 折田明浩</p>	70(49)

表 5・6 平成 30 年度事業報告 (その 6)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>前ページからの続き</p> <p>5.高圧水素条件における担持 Ru 触媒によるグルタミン酸から 2-ピロリドンのワンポット合成反応 (鳥取大院工) 菅沼学史</p> <p>6.キララなグアニジン触媒を用いる不斉アシル化および不斉シリル化反応による速度論的光学分割法の展開 (鳥根大院自然) 中田健也</p> <p>7.隣接トリカルボニル化合物を活用した多官能化合物合成 (阪大院工) 浅原時泰</p> <p>8.クロメン・クロマノン系天然由来生物活性化合物の合成研究 (広島大院医歯薬保) 熊本卓哉</p> <p>ポスター発表: 25 件</p>	
シンポジウム【九州・山口支部】	
<p>第 30 回若手研究者のためのセミナー; 9/1; 九州大学病院キャンパス; 世話人: 谷口陽祐(九大院薬) 特別講演 1 件; 招待講演 1 件; 受賞講演(ポスター賞); 企業紹介; ポスター発表</p>	126(99)
<p>第 6 回日英触媒的不斉合成シンポジウム; 11/28-29; 九州大学医学部百年講堂</p> <p>触媒的不斉合成に関連する英国および日本を代表する研究者 20 名が一同に会し、最新の研究成果を発表する。</p> <p>共催: 有機合成化学協会九州山口支部</p>	76(39)
講習会【本部】	
<p>有機合成化学講習会(前期); 6/13~6/14; 日本薬学会会長井記念館長井記念ホール</p> <p>テーマ: 有機合成の新潮流—反応剤・反応・創薬 新たな挑戦—</p> <p>1.日進月歩の芳香族化合物脱カルボニル型変換反応 (早大理工) 山口潤一郎</p> <p>2.高反応性ホウ素化合物の化学: 不安定化学種取り扱い入門 (名大院工) 山下誠</p> <p>3.核酸医薬開発へ向けた技術構築の挑戦 (協和発酵キリン) 山本潤一郎</p> <p>4.【有機合成化学協会賞「技術的なもの」受賞講演】</p> <p>新規酸化剤『次亜塩素酸ナトリウム 5 水和物(SHC5)』の工業化と酸化反応への応用 (日本軽金属) 岡田倫英</p> <p>5.生きている動物内での創薬研究: 生体内合成化学治療 (理研) 田中克典</p> <p>6.マイクロフローリアクターを用いる高速・高効率アシル化反応 (東工大化生研) 布施新一郎</p> <p>7.連続生産の社会実装への取組み (高砂ケミカル) 齊藤隆夫</p> <p>※ランチョンセミナー2社 ◇ロックウッドリチウムジャパン ◇ユミコアジャパン</p> <p>8.アルコールを効率的かつ選択的に酸化するために (名大院創薬科学) 澁谷正俊</p> <p>9.【有機合成化学協会賞「技術的なもの」受賞講演】</p> <p>HIV-1 インテグラーゼ阻害剤ドルテグラビルの効率的合成法の開発 (塩野義製薬) 安酸達郎</p> <p>10.フローマイクロリアクターを用いた超高速反応による精密合成 (京大院工) 永木愛一郎</p> <p>共催: 日本化学会、日本薬学会 協賛: 日本農芸化学会</p>	91(0)
<p>有機合成化学講習会(後期); 11/21~11/22; 日本薬学会会長井記念館長井記念ホール</p> <p>テーマ: 有機合成の底力—新手法・新材料・創薬—</p> <p>1.保護基・活性化基に頼らない直接触媒反応 (九大院薬) 大嶋孝志</p> <p>2.しなやかタフポリマーによるポリマー高性能化 (東レ) 小林定之</p> <p>3.高屈折率・超低複屈折ポリカーボネートの開発とレンズ展開事例 (三菱ガス化学) 加藤宣之</p> <p>4.新規メカニズムを有する抗インフルエンザ薬の創製 (塩野義製薬) 河井真</p> <p>5.連続フロー反応による医薬品の革新的プロセスの開発—スケールアップから実用化まで— (カネカ) 安河内宏昭</p> <p>6.結晶スポンジ法: 天然物化学、創薬研究への応用 (東大院工) 藤田誠</p> <p>7.核酸医薬への有機合成化学的アプローチ (東京理大薬) 和田猛</p> <p>8.核磁気共鳴を利用した高感度生体分子計測 (東大院工) 山東信介</p> <p>9.クライオ電顕法の発展と創薬応用への可能性 (名大細胞生理学センター客員) 藤吉好則</p> <p>10.バイオ医薬品への有機合成化学アプローチ—抗体薬物複合体 Trastuzumab deruxtecan の創薬研究— (第一三共) 中田隆</p> <p>11.環状アルキンを用いる合成化学 (東京医歯大生材研) 吉田優</p> <p>12.日本発の大村天然化合物による微生物創薬 (北里大北里生命研) 砂塚敏明</p>	87(0)

表 5・7 平成 30 年度事業報告 (その 7)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
前ページからの続き 共催：日本化学会、日本薬学会 協賛：日本農芸化学会	
「AIと有機合成化学」研究部会 第 1 回勉強会；6/21；化学会館 1.インフォーマティクスで有機合成の働き方改革！（ダイセル）大野充 2.Grzybowski 教授の仕事の意味－Chemica の衝撃（京大院工）松原誠二郎 3.Chemica で何ができるのか（シグマ アルドリッチ ジャパン）田中紀子	117(2)
「AIと有機合成化学」研究部会 第 2 回勉強会；9/12；化学会館 1.Flow 合成と AI 利用の可能性（富士フイルム）山川一義 2.有機合成化学者が挑戦する AI×触媒研究（産総研）矢田陽 3.合成経路予測ツール - ChemPlanner from CAS（化学情報協会）上野京子	103(1)
講習会【東北支部】	
秋田地区講演会；11/21；秋田大学理工学部 「化学で生命現象を視る：有機小分子による蛍光イメージング」（五稜化薬）鈴木悠記 「発光生物学：光る生きものの科学」（中部大）大場裕一	48(44)
講習会【関西支部】	
有機合成 2 月セミナー「有機合成のニュートレンド 2018」；2/5～2/6；大阪科学技術センター 1.逆転の発想から生まれた、2 型糖尿病治療薬カナグリフロジン～尿糖排泄を促す SGLT2 阻害薬～ （田辺三菱製薬）野村純宏 2.創薬研究を指向した金属ナノ粒子触媒の開発とその応用（阪大院薬）有澤光弘 3.組織中 lacZ 発現細胞のライブ検出を可能とする蛍光プローブの開発（東大院医）神谷真子 4.核酸を標的とした低分子創薬のススメ（阪大産研）中谷和彦 5.創薬化学における AI の現状と可能性（京大院医）奥野恭史 6.典型元素 $\pi$ 電子系の創製と蛍光イメージングへの展開（名大生命分子研）山口茂弘 7.金属ナノ粒子触媒を用いた環境調和型の官能基変換反応（阪大院基礎）實川浩一郎 8.mGluR5 ネガティブアロステリックモジュレーターの創薬研究（阪大院薬/大日本住友製薬）吉田耕三 9.化学資源を活用する有機合成化学（京大化研）中村正治 10.網羅合成を目指した連続反応による天然物合成（名大院生命農）西川俊夫 11.未来を化学で元気にする元素ブロック高分子材料（京大院工）中條善樹 共催：日本化学会、日本薬学会、日本農芸化学会、近畿化学協会	126(43)
有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」；8/27～8/28；大阪科学技術センター 1.分子夾雑系でのタンパク質有機化学（京大院工）浜地格 2.HIV-1 インテグラーゼ阻害剤ドルテグラビルの効率的合成法の開発（塩野義製薬）安酸達郎 3.新しい分子の振舞いを理解する：触媒機能から生物活性まで（名大 WPI-ITbM）大井貴史 4.ペプチド医薬品探索の革命（東大院理）菅裕明 5.ケミカルバイオロジー研究のための新手法の開発（理研）袖岡幹子 6.半導体レジスト材料レジストモノマー®の開発－シミュレーションの活用－（ダイセル）大野充 7.反芳香族ポルフィリンから探る新たな芳香族性（名大院工）忍久保洋 8.タキソール全合成への挑戦（慶大理工）千田憲孝 9.亜鉛、コバルト、マンガン錯体触媒によるエステル交換反応およびアミドの C-N 結合切断反応（阪大院基礎工）真島和志 10.フローマイクロ光化学による効率的物質合成（奈良先端大）垣内喜代三 共催：日本化学会、日本農芸化学会、日本薬学会、近畿化学協会	94(30)
懇談会【本部】	
2018 新春特別フォーラム；1/17；化学会館・山の上ホテル（本館） ※講演の部「世界に飛躍する日本の科学技術―産学の明日を考える―」 1.富士フイルムのイノベーションにおける変革と新規事業の創出（富士フイルム）戸田雄三 2.天然物合成 四方山ばなし（東工大理）鈴木啓介 ※賀詞交換会「産官学の人的ネットワーク構築をめざして」 共催：有機合成化学協会関東支部	149(0)

表 5・8 平成 30 年度事業報告 (その 8)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
第 2 回公開講演会「AIと有機合成化学」-キックオフミーティングを兼ねて- ; 1/31 ; 化学会館 7F ホール 1.科学技術研究を加速する人工知能 (産総研 A I センター) 辻井潤一 2.合成の自動化と AI への期待 (京大院工) 吉田潤一 3.ビッグデータ社会における AI の重要性～AI は、新材料を見つけることができるのか～(長瀬産業)折井靖光	109(0)
日本プロセス化学会・有機合成化学協会ジョイント講演会(出前講義) 6/8 ; 名古屋工業大学 Nitech ホール 1.主旨説明 (岐阜薬大) 佐治木弘尚 2.出前講義 (中外製薬) 池田拓真 ; (カネカ) 西山章 ; (アステラス製薬) 林泰正 3.出前講義のお礼と連絡事項・東海地区フォーラムのご案内 (名工大院工) 中村修一 4.総括と今後の展望 (北里大北里生命研) 砂塚敏明 共催 : 日本プロセス化学会、名古屋工業大学材料科学フロンティア研究院	211(130)
中堅・若手リーダーのための Y U G O K A F e (ユウゴウカフェ) (講演 & 討論会) —法人企業のリーダーークラス、次のリーダーを担う研究職・技術系社員、同年代のアカデミア所属会員のためのフォーラム— ; 8/24 ; 化学会館 7F ホール/6F 大会議室 [第 I 部] 講演 2 件 1.創薬研究とビジネスの融合、研究者に求められるセンスとは (ペプチドリーム) 舩屋圭一 2.化学企業人の研究人生— 1 つの例 (三井化学) 藤田照典 [第 II 部] 討論会	60(0)
有機合成化学懇談会 ; 12/14 ; 化学会館 5F 大会議室 企業の若手研究者と交流・討論できる、学生のためのセミナー(第 5 弾) (1) パネラー紹介 1.横浜研究所での生活ご紹介～日々行っていること、考えていること～ (三菱ケミカル) 中村健史 2.子育て世代のワーク・ライフ・バランス (富士フイルム) 山本愛子 3.製薬企業でのお仕事～有機化学を使って創薬+こんな業務も～ (アステラス製薬) 関岡竜一 4. J S R の紹介 (海外研究派遣制度や業務紹介を中心に) ( J S R ) 岸田高典 5.医薬探索合成から研究企画へ、将来設計の一例 (東レ) 新田亜衣子 6.自己紹介と住友化学 健康・農業関連事業研究所での仕事 (住友化学) 田邊貴将 (2) ブース形式懇談会	52(52)
懇談会【北海道支部】	
来日化学者講演会 ; 7/10 ; 室蘭工業大学 Ming-Hua Xu 教授による特別講演会 主催 : 有機合成化学協会北海道支部、共催団体 : 室蘭工業大学、日本薬学会北海道支部	31(25)
懇談会【関東支部】	
有機合成化学ミニシンポジウム① ; 4/20 ; 東京理科大学神楽坂キャンパス 1.天然物の合成研究 : 発想と展開—アイデアと人との出会い— (理研名誉研究員、東京理大嘱託) 中田忠	221(149)
有機合成化学ミニシンポジウム② : ミニシンポジウム湘南 2018 ; 7/7 ; 東海大学湘南キャンパス 1.有機触媒を用いた可視光ペルフルオロアルキル化反応の展開 (お茶の水女子大基幹研) 矢島知子 2.アシルシラン類の光反応を活用する新規分子変換手法 (学習院大理) 草間博之 3.小さな分子スイッチで巨大分子や材料を動かす (東工大物質理工) 高田十志和	129(109)
有機合成化学ミニシンポジウム③ : ミニシンポジウム千葉 2018 ; 10/29 ; 千葉大学自然科学系総合研究棟 (西千葉キャンパス) 1.プロスタグランジン受容体作動薬の設計と合成 (東レ) 林亮司 2.典型金属触媒を用いる低酸性炭素-水素結合の直接的変換反応の開発 (東大院理) 山下恭弘 3.有機分子の孔から物理を覗く : ナノカーボンモデル分子の科学 (東大院理) 磯部寛之	148(76)
有機合成化学ミニシンポジウム④ : ミニシンポジウム多摩 2018 ; 10/27 ; 東京薬科大学 3 号館 1.カチオン環化反応の研究における幾つかのセレンディピティー (工学院大先進工) 南雲紳史	130(89)

表 5・9 平成 30 年度事業報告 (その 9)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
前ページからの続き 2.ポリフェノールの合成から学んだ有機化学 (東工大理) 大森建 3.特徴あるニトロンの創成とその高次利用 (昭和薬大薬) 田村修 共催: 東京薬科大学、東京薬科大学「私立大学研究ブランディング事業」	
第 16 回有機合成化学談話会(湯河原セミナー); 9/28~9/29; 富士フイルム和光純薬(株)湯河原研修所 講演 3 件 1.環状骨格を持つ非天然アミノ酸を基盤とする構造研究と応用 (東大院薬) 尾谷優子 2.世界の農薬マーケット現状と農薬開発研究の実際 (日本曹達) 三谷晃 3.天然物合成 四方山ばなし (東工大理) 鈴木啓介 【ショートレクチャー】&【ポスターセッション】6 件	28(9)
懇談会【東海支部】	
Dr. Yi Hsaio (Xiao) 訪日学者講演会; 3/16; 名古屋大学 Development of Challenging Catalytic Reactions through Mechanistic Understanding (Head of Catalysis R&D Group, Chemical & Synthetic Development, Bristol-Myers Squibb Company, U.S.A.)Dr. Yi Hsaio (Xiao)	113(98)
Prof. Aaron Aponick 訪日学者講演会; 3/16; 名古屋大学 StackPhos: From Structural Curiosity to Enantioselective Catalysis (Department of Chemistry, University of Florida,U.S.A.)Prof. Aaron Aponick	113(98)
Prof. Philip Mountford 訪日学者講演会; 3/16; 名古屋大学 Recent Advances in the Synthesis and Reactivity of Transition Metal Hydrazido and Borylimido Compounds (Department of Chemistry, University of Oxford, U.K.)Prof. Philip Mountford	113(98)
Dr. Dominique Cahard 訪日学者講演会; 4/24; 名古屋工業大学 " When Fluorine met Sulfur" (Université de Rouen, France, Organic Chemistry Research Institute) Dr. Dominique Cahard	82(79)
Ph.D. Utpal Bora 訪日学者講演会; 7/23; 岐阜薬科大学 Palladium Catalysis: Chemosensors, Mechanistic Studies, and Bioorthogonal Chemistry (Associate Professor Department of Chemical Sciences,Tezpur University, Tezpur, Napaam, Assam, India)Ph.D. Utpal Bora	25(20)
Prof. Ying-Yeung Yeung 訪日学者講演会; 8/28; 名古屋大学 Recent Advances in Organocatalytic Halogenation Reactions (Department of Chemistry, The Chinese University of Hong Kong, China) Prof. Ying-Yeung Yeung	87(72)
Prof. Ryan A. Shenvi 訪日学者講演会; 9/11; 名古屋大学 Chemical Synthesis of Secondary Metabolites (Department of Chemistry, The Scripps Research Institute, U.S.A.)Prof. Ryan A. Shenvi	96(81)
Prof. Christopher S. Jeffrey 訪日学者講演会; 10/10; 静岡県立大学 Exploring natural products variation leads to chemical discoveries (Associate Professor Department of Chemistry University of Reno, U.S.A.) Christopher S. Jeffrey	40(32)
Prof. Philippe Jubault 訪日学者講演会; 10/31; 豊橋技術科学大学 Asymmetric synthesis of fluorocyclopropanes, difluoromethyl and trifluoromethyl cyclopropanes and applications (Enseignant-chercheur INSA de Rouen, France)Prof. Philippe Jubault	24(21)
懇談会【関西支部】	
有機合成新春講演会; 1/23; 大阪科学技術センター	

表 5・10 平成 30 年度事業報告 (その 10)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
<p>前ページからの続き</p> <p>1.キラル有機物質が示す革新的複雑系化学現象の発見と機構解明および一般化(京大院人間・環境学) 田村類</p> <p>2.エレクトロニクス応用に向けた共役 <math>\pi</math> 電子系の開発～構造有機化学と機能材料科学のはざまで～ (阪大産研) 安蘇芳雄</p> <p>3.次世代を担う有機レドックス化学合成からエネルギー貯蔵まで (京大院工) 吉田潤一</p> <p>4.会合現象が要になる高活性キラルチタン触媒 (京工織大院工芸) 原田俊郎</p> <p>5.アセタル型塩化学種を利用する有機合成化学 (阪大院薬) 藤岡弘道</p> <p>6.関西有機合成化学四半世紀 (同志社女大薬/京大名誉) 富岡清</p> <p>共催: 近畿化学協会</p>	96(19)
<p>セミナー“化学千一夜「あすの化学への夢を語ろう」; 6/8～6/9 ; ダイキン工業(株)テクノロジー・イノベーションセンター(TIC)/I&amp;I LAND</p> <p>1.見学会; ダイキン工業(株)テクノロジー・イノベーションセンター</p> <p>2.テクノロジー・イノベーションセンターのご紹介とダイキンのフッ素化学 (ダイキン) 徳野敏</p> <p>3.ダイキンのフッ素化技術と中間体の紹介 (ダイキン) 黒木克親</p> <p>4.光化学を直感的に理解する – 材料化学のための新しい量子化学 – (京大化研) 志津功将</p> <p>5.放談会「千一夜物語とは比ぶべくもない化学よもやま話」(京大名誉) 植村榮</p> <p>6.無機ナノ粒子触媒が叶えるグリーンな物質・エネルギー変換 (九大 I2CNER) 山内美穂</p> <p>7.ホスゲン反応へのフローリアクターシステムの活用と GMP・マルチパーパス設備の導入 (カネカ) 安河内宏昭</p> <p>8.電子が触媒するクロスカップリング反応 (関西学大理工) 白川英二</p> <p>共催: 日本化学会、近畿化学協会</p>	47(0)
懇談会【中国・四国支部】	
<p>第 77 回パネル討論会「有機フッ素化学」(第 1 回幹事会・懇話会合同会議) ; 5/19 ; 岡山大学 ; 世話人: 依馬正、坂倉彰</p> <p>1.有機フッ素化合物の触媒的合成: 技術開発と展開 (群馬大院理工) 網井秀樹</p> <p>2. gem-ジフルオロシクロプロパン-合成とその機能材料化、開環反応によるさらなる活用 (鳥取大院工) 伊藤敏幸</p>	116(69)
<p>第 78 回パネル討論会「ポルフィリノイド化学の進歩と展望」; 7/21 ; 愛媛大学 ; 世話人: 宇野英満</p> <p>1.Selective Synthesis of Ring-expanded Porphyrins with No Meso-bridges (愛媛大院理工) 奥島鉄雄</p> <p>2.Molecular Recognition and Catalysis with Porphyrins and Related Macrocycles (岡山大院自然) 依馬正</p> <p>3.Creation from Confusion: Novel Properties of Expanded, Contracted, and Isomeric Porphyrins Bearing Confused Pyrrole Rings (九大院工) 古田弘幸</p> <p>4.Macrocyclic-based Adventures in Self-Assembly (The University of Texas, USA) Jonathan L. Sessler</p> <p>5.Fusion Chemistry of Porphyrinoids (京大院理) 大須賀篤弘</p> <p>6.Spectroscopic Diagnosis of Excited-state Aromaticity: Capturing Electronic Structures and Conformations upon Aromaticity Reversal (Yonsei University, Korea) Dongho Kim</p>	51(31)
<p>来日学者講演会 ; 1/16 ; 岡山大学 ; 世話人: 西原康師</p> <p>Multi-Stimuli-Responsive and Multicolor Luminescent Organic Materials (National Taiwan University, China) Prof. Jye-Shane Yang</p>	34(23)
<p>来日学者講演会 ; 2/8 ; 岡山大学 ; 世話人: 依馬正</p> <p>Energy Relevant Processes Catalyzed by Corrole Metal Complexes (Israel Institute of Technology, Israel) Prof. Zeev Gross</p>	33(27)
<p>来日学者講演会 ; 2/9 ; 愛媛大学 ; 世話人: 宇野英満</p> <p>Metalloporphyrins for Photocatalysis (Israel Institute of Technology, Israel) Prof. Zeev Gross</p>	25(20)

表 5・11 平成 30 年度事業報告 (その 11)

事業の名称および事業の概要	参加者数 総数(学生数)
来日学者講演会；3/9；岡山大学；世話人：依馬正 Fat and Sweet Chemistry towards Hydrogels and Polymer Materials (Ecole Nationale Supérieure de Chimie de Rennes, France)Associate Prof. Loïc Lemiègre	20(15)
第 15 回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム；12/8；広島大学 世話人：相田美砂子(ナノ・バイオ・インフォ化学研究会、日本化学会) 口頭発表 (A) (20 分)、口頭発表 (B) (15 分) 主催：ナノ・バイオ・インフォ化学研究会、日本化学会	69(48)
懇談会【九州・山口支部】	
第 55 回化学関連支部合同九州大会；6/30；北九州国際会議場(北九州市) 化学関係九州支部(共催)；担当：有機合成化学協会九州山口支部 特別講演 1 件、招待講演 8 件、ポスター発表 135 件	900 (688)
第 1 回有機合成化学講演会；5/11；九州大学病院キャンパスコラポステーション I 招待講演 3 件；世話人：清水宗治(九大院工)	90(52)
外国人特別講演会；3/19；九州大学 I2CNER ホール伊都キャンパス；担当：内田竜也(九大基幹) K. Barry Sharpless 教授講演会 (Department of Chemistry, The Scripps Research Institute)	100(40)
外国人特別講演会；7/27；九州工業大学戸畑キャンパス；担当：北村充(九工大院工) Olena V. Zenkina 教授講演会 Metal-ligand affinities and structure-induced properties in “smart” electrochromic and metal-sensing materials	49(42)
外国人特別講演会；11/7；九州大学先導物質化学研究所筑紫地区中央棟 111 演習室；担当：新藤充(九大先導研) Norbert Krause 教授講演会 (Dortmund University of Technology, Germany ) Water as Reaction Medium for Sustainable Gold Catalysis	20(17)
高分子学会九州支部フォーラム；2/23；崇城大学アクティブコモンズ 1.正岡重行 (分子研)、2.山口浩靖 (阪大)、3.速水真也 (熊本大)、4.西原康師 (岡山大) 主催：高分子学会九州支部	72(56)
日本化学会九州支部第 1 回講演会；4/26；ホルトホール大分 1.山本尚 (日本化学会会長)、2.氏家誠司 (大分大理工)、3.河村伸一 (住友化学株) 主催：日本化学会九州支部	93(48)
見学会	
見学会；実施なし	
公 2 関連会議	
有機合成化学協会事業委員会(3/9,5/16,7/10,9/25,12/4) 平成 30 年度(秋季)有機合成化学講習会企画委員会；5/16 平成 31 年度(春季)有機合成化学講習会企画委員会；11/7 第 113 回有機合成シンポジウムプログラム編成会議；3/9 第 114 回有機合成シンポジウムプログラム編成会議；7/10	
公 3. 表彰事業	担当機関
有機合成化学特別賞の選考と受賞者(1 件採択)	
理事による候補者推薦；6～8 月郵便による投票	理事会
理事によって推薦された候補者からの受賞者選考；10/11；化学会館 ●山本嘉則(東北大学名誉教授) 業績：有機金属—ルイス酸複合反応系および新奇金属触媒を用いる合成 表彰式・受賞講演(H31.2/14)	賞選考 委員会
有機合成化学協会賞・奨励賞の選考と受賞者(協会賞：3 件；奨励賞：5 件採択)	
各支部推薦委員会；～7 月	賞選考 委員会
奨励賞書面審査；実施せず	
協会賞(学術/技術)・奨励賞選考委員会；10/10～10/11；化学会館	

表 5・12 平成 30 年度事業報告 (その 12)

事業の名称および事業の概要	担当機関
<p>有機合成化学協会賞(学術的なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市川淳士(筑波大学) 業績: フッ素置換基の特性に基づく有機合成反応の促進と制御</li> <li>●澤村正也(北海道大学) 業績: 炭素-炭素結合形成不斉銅触媒反応の開発</li> </ul> <p>有機合成化学協会賞(技術的なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安河内宏昭((株)カネカ) 業績: 連続フロー反応による医薬品の革新的プロセス開発</li> </ul> <p>有機合成化学奨励賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●岩崎孝紀(東京大学) 業績: 不活性結合の切断を伴う触媒的炭素骨格構築手法</li> <li>●臼井一晃(九州大学) 業績: ヘリセンの螺旋構造内部空間に着目した機能性分子の創製研究</li> <li>●澤間善成(岐阜薬科大学) 業績: 水素抽出型化学変換法の開発と応用展開</li> <li>●武田洋平(大阪大学) 業績: 含窒素芳香族化合物の新構築法に基づいた多機能性発光分子の創製</li> <li>●宮村浩之(東京大学) 業績: 不均一系触媒としての金属ナノ粒子の創成と有機合成への展開</li> </ul> <p>表彰式(H31.2/14)</p> <p>受賞講演: 協会賞(学術的なもの: H31.2/14 技術的なもの: H31.10/31~11/1) 奨励賞(H31.9/17~19)</p>	
Mukaiyama Award の選考と受賞者(国内および海外各 1 件採択)	
<p>Mukaiyama Award 委員会; 2019 受賞者選考委員会 8/25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉俊介(南洋理工大学、シンガポール) Exploration of new reactivity of main group metal hydrides for development of unique and unprecedented molecular transformations.</li> <li>●Prof. Richmond Sarpong (University of California, Berkeley) Development of strategies and methods for the synthesis of complex molecules, including natural products, by employing chemical network analysis as well as C-H and C-C bond functionalizations.</li> </ul> <p>表彰式・受賞講演; H31.9/17~19</p>	Mukaiyama Award 委員会
Lectureship Award	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●Prof. Ryan A. Shenvi (The Scripps Research Institute, USA) The development of metal-catalyzed hydrogen atom transfer reactions and total synthesis of complex natural products.</li> </ul> <p>表彰式・受賞講演; H30.9/18~20</p>	東北支部
企業冠賞の選考と受賞者(各 1 件、合計 4 件採択)	
<p>シオノギ・低分子創薬化学賞; 書面審査(郵便; ~11/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●長澤和夫(東京農工大学) 業績: 全合成を基盤とするグアニジンアルカロイド類の生物および化学的機能創出</li> </ul> <p>東ソー・環境エネルギー賞; 書面審査(郵便; ~11/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●斎藤進(名古屋大学) 業績: 有機金属錯体を用いる安定カルボン酸誘導体の触媒的水素化法の開拓</li> </ul> <p>日産化学・有機合成新反応/手法賞; 書面審査(郵便; ~11/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大嶋孝志(九州大学) 業績: 官能基標的触媒による化学選択性の触媒制御を基盤とする複雑系分子の直接的変換反応の開発</li> </ul> <p>富士フイルム・機能性材料化学賞; 書面審査(郵便; ~11/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●畠山琢次(関西学院大学) 業績: タンデムボラ Friedel-Crafts 反応を鍵とした有機エレクトロニクス材料の開発</li> </ul>	企業冠賞選考委員会
高砂香料国際賞「野依賞」関連	
<p>野依賞委員会; 2018 受賞者選考委員会 8/27</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Prof. Yoshito Kishi (Harvard University, USA) Prof. Kishi has been engaged in a wide range of research on complex natural products with significant biological activities. He pioneered the area of acyclic stereocontrol, completed the total synthesis of numerous complex natural products including neurotoxins (palytoxin, tetrodotoxin, etc.), polyether antibiotics (monensin, lasalocid A, etc.) and antitumor natural products (halichondrins, mitomycin, etc.), and advanced a new concept for stereochemistry assignment of complex organic molecules. Notably, his</li> </ul>	野依賞委員会

表 5・13 平成 30 年度事業報告 (その 13)

事業の名称および事業の概要		参加者数 担当機関
前ページからの続き research efforts on the halichondrin class of marine natural products paved the way for the successful creation of Eisai's anticancer drug Halaven (Eribulin mesylate). 表彰式・受賞講演；H31.2/14		
支部表彰		
【関西支部】 第 16 回関西支部賞受賞講演会；12/4；大阪科学技術センター 1. 金属ナノクラスターの精密有機修飾を利用した触媒反応加速場の構築（京大化研）磯崎勝弘 2. スピロシクロプロパンの環ひずみを活用した複素環化合物の高効率的合成法の開発（富山大院医薬）南部寿則 3. 光誘起電子移動を駆動力とする環境調和型ラジカル反応系の構築（福井大院工）吉見泰治 共催：近畿化学協会		45(0)
【中国・四国支部】 有機合成化学特別講演会「支部奨励賞受賞講演並びに特別招待講演会」；11/24；広島大学(第 2 回幹事会・懇話会合同会議)；世話人：灰野岳晴 【支部奨励賞受賞講演】 弱い相互作用により駆動される自己集合を利用した機能性超分子集合体の合成と機能（東海大理）池田俊明 【特別招待講演】 グアニン四重鎖のケミカルバイオロジー（東農工大院工）長澤和夫		48(20)
【九州・山口支部】 第 2 回有機合成化学講演会・支部各賞表彰式；11/15；九州大学伊都キャンパス；世話人：清水宗治(九大院工) 支部賞受賞講演、招待講演 第 28 回万有福岡シンポジウム；5/12；九州大学病院キャンパス百年講堂；支部ポスター賞（2 名）		77(41)
他 1・共益事業		
ゆうごう会		
第 25 回ゆうごう会；6/18；化学会館 講演 1 件：サプリメント活用による薬に頼らない健康（イムダイン）本多伸吉		13(0)
第 26 回ゆうごう会；12/13；King of Kings（大阪市）；講演 2 件 1. 大学の片隅で経験したゆうごう会でしか話せない小話（京大名誉）鈴木仁美 2. 化学企業に奉職して一化学を楽しんだ小話（元日本合成化学）下坂雅俊		23(0)
海外視察団派遣		
海外視察団派遣；実施なし		
技術アドバイス事業		
技術アドバイス事業；申請なし		
研究企画賞		担当機関
研究企画賞選考委員会；11/12；化学会館；22 件採択 ● 味の素研究企画賞：森廣邦彦（東京大学） L-Threosamine を基盤骨格とした架橋型人工核酸の合成と核酸医薬素材への応用 ● ADEKA 研究企画賞：渡邊瑞貴（北海道大学） ペプチドミメティクスとして機能する $\alpha$ ヘルックス型フォルダマー分子の創製 ● 岩城製薬研究企画賞：鰐淵清史（横浜薬科大学） マイクロフロー化学を基盤とした[1.1.1]propellane ライブラリーへの応用 ● カネカ研究企画賞：佐藤太久真（理化学研究所） 自己組織化による回収再利用可能な高分子担持光触媒の開発 ● 関東化学研究企画賞：土戸良高（東京工業大学） 環状オリゴジチオアレーンの合成と二次元材料への応用 ● コニカミルタ研究企画賞：久松洋介（名古屋市立大学） 生体応用を指向した蛍光応答性人工ヘムレセプターの設計・合成		研究企画賞 選考委員会

表 5・14 平成 30 年度事業報告 (その 14)

事業の名称および事業の概要	担当機関
<p>前ページからの続き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 塩野義製薬研究企画賞: 矢田陽 (産業技術総合研究所) 機械学習を活用した高活性触媒の効率的設計のための方法論の構築</li> <li>● セントラル硝子研究企画賞: Kyalo Stephen Kanyiva (早稲田大学) アミノ酸をテンプレートとする効率的ヘキサフルオロイソプロピル基の導入法開発</li> <li>● 第一三共研究企画賞: 西川慶祐 (大阪市立大学) 含窒素スピロ環を一挙構築する不斉環化異性化反応の開発: アルカロイド合成の新戦略</li> <li>● 大正製薬研究企画賞: 伊藤幸裕 (京都府立医科大学) RNAを分解する低分子化合物の創製とその創薬化学的応用</li> <li>● ガイセル研究企画賞: 石割文崇 (東京工業大学) 有効共役長の伸長と特異な高次構造形成をもたらす「二面性 <math>\pi</math> 共役ポリマー」の開発</li> <li>● 田辺三菱製薬研究企画賞: 浅子壮美 (岡山大学) ジアゾ化合物を用いない触媒的カルベン発生法の開拓</li> <li>● 中外製薬研究企画賞: 溝口玄樹 (岡山大学) ホウ素アート錯体の 1,2-メタレート転位を精密制御する多官能性分子骨格の構築</li> <li>● 帝人ファーマ研究企画賞: 八幡健三 (大阪大学) 末端二重結合からキラルアニオンの調製: 不斉メチル基の触媒的構築への応用</li> <li>● 東ソー研究企画賞: 酒巻大輔 (大阪府立大学) 非対称型アザアセンの酸化的カップリングを用いた円偏光発光材料の大量・迅速合成法の確立</li> <li>● 日産化学研究企画賞: 永縄友規 (産業技術総合研究所) クロロシランの遷移金属への酸化的付加を鍵とする触媒的分子変換反応の開発</li> <li>● 日本触媒研究企画賞: 重野真徳 (東北大学) 複合プレンステッド塩基を活用した二酸化炭素による炭素-水素結合のカルボキシ化反応</li> <li>● 富士フイルム研究企画賞: 熊田佳菜子 (東北大学) 分子状酸素を用いた銅触媒 <math>sp^3</math> 炭素-水素結合官能基化による機能性物質の環境調和型合成法の開発</li> <li>● 三井化学研究企画賞: 高石和人 (岡山大学) 発光団の嚙掛けによる円偏光発光色素の開発</li> <li>● 三菱ガス化学研究企画賞: 前田千尋 (岡山大学) 二酸化炭素固定化による六員環及び七員環環状炭素エステル合成法の開発</li> <li>● 三菱ケミカル研究企画賞: 大城宗一郎 (名古屋大学) 超分子ポリマーの時間発展を利用するハイブリッド材料の創製</li> <li>● Meiji Seika ファルマ研究企画賞: 牧野宏章 (東京理科大学) 医薬品及び関連化合物に含まれるスルホキシドに対する光反応を用いた新規立体化学制御法の開発</li> </ul>	<p>研究企画賞 選考委員会</p>
法人運営関連会議	
本部関連	
第 81 回通常総会(定期社員総会; 2/15)	
運営委員会・理事会(1/26, 2/15, 4/13, 6/15, 9/10, 12/6)	
財務・予算委員会(11/30, 1/18); 第一分科会(協会誌見直し)・第二分科会(会員増強) (4/13, 6/15, 9/10, 12/6)	
平成 31 年度役員候補者選出委員会(10/23)	
支部関連【北海道支部】	
支部幹事会; 7/7; 北海道大学	
1. 役員の紹介; 2. 2017 年度北海道支部・収支決算報告; 3. 2018 年度北海道支部・事業計画紹介; 4. 若手研究者のための有機化学札幌セミナーに関して; 5. 平成 31 年度有機合成化学協会役員推薦に関して; 6. 次期(平成 31, 32 年度)北海道支部代表理事(支部長)候補者の推薦に関して; 7. 役員候補者選出委員会・委員の選出に関して; 8. 有機合成化学協会賞、および奨励賞の推薦に関して; 9. 有機合成化学特別賞の推薦に関して; 10. 有機合成シンポジウム【春】に関して	
支部幹事会; 11/8; 北海道大学	
1. 2019 年度北海道支部・事業計画、および予算案に関して; 2. 次期北海道支部理事(支部長)に関して; 3. 役員(会長候補者、副会長候補者)の選出に関して; 4. 第 115 回有機合成シンポジウム【春】の開催に関して	

表 5・15 平成 30 年度事業報告 (その 15)

事業の名称および事業の概要	担当機関
支部関連 【関東支部】	
常任幹事会(4/20,7/12,10/18,12/18)	
支部幹事会(4/20,10/18)	
談話会(湯河原セミナー)企画委員会 ; 3/30 ; 化学会館	
協会賞等支部推薦委員会 ; 7/12 ; 化学会館	
新潟シンポジウム世話人会・新潟地区幹事会合同会議 ; 12/1	
支部関連 【九州・山口支部】	
事務引継会 ; 2/8 ; 九州大学伊都キャンパス(参加者 : H29/30 幹事執行部、相談役、監査、事務局員)	
支部各賞選考委員会 ; 5/11 ; 九州大学病院キャンパスコラボステーション I 奨励賞・優秀論文賞・技術賞候補者によるヒアリング ; 支部各賞選考委員(7名)	
第 1 回幹事会 ; 5/11 ; 九州大学病院キャンパスコラボステーション I 議題 : 平成 29 年度事業・決算報告 ; 平成 30 年度事業計画・予算案他	
第 2 回幹事会 ; 11/15 ; 九州大学伊都キャンパス 議題 : 平成 30 年度中間事業・会計報告 ; 平成 31 年度事業計画・予算案他	

#### 事業報告附属明細書

平成 30 年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。





表 6・3 平成 31 年度事業計画 (その 3)

事業の名称・事業の概要	主催	共催・協賛
公2・研究会事業(つづき)		
公2 関連会議		
事業委員会(日時未定; 5回)	本部	
有機合成化学シンポジウムプログラム編成会議(2回)	本部	
有機合成化学講習会企画委員会(2回)	本部	
新潟シンポジウム世話人会・新潟地区幹事会合同会議(12月; 1回)	関東支部	
有機合成化学談話会(湯河原セミナー)企画委員会(日時未定; 1回)	関東支部	
公3. 表彰事業		担当組織
有機合成化学特別賞関連		
理事による予備投票(6~8月郵便); 委員会による選考(10月10-11日)		協会賞等選考委員会
有機合成化学協会賞・奨励賞関連		
各支部推薦委員会(~7月)		各支部
協会賞(技術)・奨励賞書面審査(7月; 郵便)		協会賞等選考委員会
協会賞(学術/技術)・奨励賞選考委員会(10月10-11日)		協会賞等選考委員会
Mukaiyama Award関連会議		
Mukaiyama Award委員会(選考委員会)		Mukaiyama Award委員会
企業冠賞関連		
塩野義製薬「低分子創薬化学賞」書面審査(郵便)		左記選考委員会
東ソー「環境エネルギー賞」書面審査(郵便)		左記選考委員会
日産化学「有機合成新反応/手法賞」書面審査(郵便)		左記選考委員会
富士フイルム「機能性材料化学賞」書面審査(郵便)		左記選考委員会
高砂香料国際賞「野依賞」関連		
野依賞委員会		野依賞委員会
支部表彰		
支部奨励賞選考・授与(予定)		東北支部
第17回支部賞授賞講演会(日時・場所未定)		関西支部
有機合成化学特別講演会(支部奨励賞受賞講演並びに特別招待講演会)(11月; 岡山大学)		中国四国支部
支部各賞選考委員会(5月24日; 九州大学病院キャンパスロビーセッション I)		九州山口支部
第29回万有福岡シンポジウム(5月25日; 九州大学病院キャンパス百年講堂)		九州山口支部
第2回有機合成化学講演会・支部各賞表彰式(日時・場所未定)		九州山口支部
他1(共益事業)		
技術アドバイス事業		本部
ゆうごう会(日時未定: 東京、大阪各1回)		本部
海外視察団派遣(日時・場所未定)		本部
研究企画賞		
研究企画賞選考委員会		研究企画賞選考委員会
法人運営関連会議		
本部関連		
第82回通常総会(定期社員総会; 2月14日)		本部
運営委員会、理事会、理事会分科会(1,2,4,6,9,12月)		本部
2020年度役員候補者選出委員会(10月)		本部

表 6・4 平成 31 年度事業計画 (その 4)

事業の名称・事業の概要	担当組織
法人運営関連会議(つづき)	
支部関連 第1回幹事会(7月・場所未定) 第2回幹事会(11月・場所未定) 第1回常任幹事会・第1回幹事会(4月26日 ; 東京理科大学神楽坂キャンパス) 第2回常任幹事会(7月 ; 化学会館) 第3回常任幹事会・第2回幹事会(10月 ; 化学会館) 第4回常任幹事会(12月 ; 化学会館) 協会賞等支部推薦委員会(7月 ; 化学会館) 常任幹事会(2月16日 ; 名古屋) 支部総会(11月9日 ; 信州大学理学部) 支部奨励賞選考委員会(4月 ; メール会議) 協会賞等支部推薦委員会(日時・場所未定) 第1回幹事会(3月上旬頃、大阪科学技術センター) 第2回幹事会(4月下旬頃、場所未定) 第3回幹事会(7月下旬頃、場所未定) 第4回幹事会(11月頃、場所未定) 2019年度第1回幹事会・懇話会合同会議(5月 ; 広島大学) 2019年度第2回幹事会・懇話会合同会議(11月 ; 岡山大学) 事務引継会(2月頃 ; 九州大学病院キャンパス) 第1回幹事会(5月24日 ; 九州大学病院キャンパスコラボステーション I ) 第2回幹事会(日時・場所未定)	北海道支部 北海道支部 関東支部 関東支部 関東支部 関東支部 関東支部 東海支部 東海支部 東海支部 東海支部 関西支部 関西支部 関西支部 関西支部 中国四国支部 中国四国支部 九州山口支部 九州山口支部 九州山口支部

### 報告 3 平成 31 年度収支予算

平成 31 年度予算を表 7・1～7・3 に示す。前年度予算対比は以下の通り。

- 1) 会費収入は、前年度予算並みを計上。
- 2) 研究会事業は、新規「ニューモダリティと有機合成化学」研究部会を計画。
- 3) 編集出版事業収益は、広告費と単行本印税を実情にあわせ下方修正。
- 4) 企業冠賞の賛同企業は 5 社から 4 社に減少。
- 5) 雑費は、HP のリニューアルが完了し、経常費用を削減。

表 7・1 平成 31 年度正味財産増減予算書

平成 31 年 1 月 1 日から平成 31 年 12 月 31 日まで

科 目	平成31年度 A	【参考】平成30年度		増減 D A-B	増減 E A-C
		予算 B	決算 C		
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
【特定資産運用益】					
特定資産受取利息	769,000	774,000	814,635	▲ 5,000	▲ 45,635
退職給付特定資産受取利息	3,500	3,500	2,791	0	709
【受取会費】					
正会員受取会費	68,364,900	68,511,860	69,363,000	▲ 146,960	▲ 998,100
【事業収益】					
編集出版事業収益	13,748,000	15,113,000	14,038,312	▲ 1,365,000	▲ 290,312
研究会事業収益	37,946,000	36,230,000	34,600,157	1,716,000	3,345,843
表彰事業収益	6,750,000	8,150,000	8,100,000	▲ 1,400,000	▲ 1,350,000
【受取寄付金】					
受取寄付金	6,690,000	6,690,000	6,510,347	0	179,653
【雑収益】					
受取利息	3,265	6,265	834	▲ 3,000	2,431
雑収益	220,000	220,000	99,828	0	120,172
懇親会参加料収益	4,710,000	3,740,000	4,248,500	970,000	461,500
経常収益計	139,204,665	139,438,625	137,778,404	▲ 233,960	1,426,261
(2) 経常費用					
【事業費および管理費】					
編集出版事業費	26,715,231	26,306,605	27,140,641	408,626	▲ 425,410
研究会事業費	34,876,987	32,323,670	28,429,072	2,553,317	6,447,915
表彰事業費	13,315,157	14,448,657	12,871,186	▲ 1,133,500	443,971
給料手当	29,697,333	28,410,736	29,174,991	1,286,597	522,342
アルバイト費	2,470,000	2,450,000	2,442,500	20,000	27,500
退職給付費用	2,800,000	3,000,000	3,002,791	▲ 200,000	▲ 202,791
退職金支出	0	0	0	0	0
その他人件費（福利厚生費）	6,030,000	5,800,000	5,662,818	230,000	367,182
会議費	1,335,000	1,335,000	881,991	0	453,009
旅費交通費	3,755,000	3,605,000	3,881,676	150,000	▲ 126,676
通信費	1,346,000	1,356,000	1,167,776	▲ 10,000	178,224
什器備品費	500,000	300,000	207,593	200,000	292,407
事務用品・リース費	2,000,000	1,900,000	1,978,596	100,000	21,404
水道光熱費	290,000	290,000	214,790	0	75,210
事務所賃借料	4,432,263	4,367,000	4,367,520	65,263	64,743
諸謝金	1,200,000	1,200,000	1,197,180	0	2,820
懇親会費	7,960,000	7,310,000	8,184,436	650,000	▲ 224,436
雑費（税・手数料・会費・IT）	4,614,500	6,714,500	6,402,581	▲ 2,100,000	▲ 1,788,081
経常費用計	143,337,471	141,117,168	137,208,138	2,220,303	6,129,333
当期経常増減額	▲ 4,132,806	▲ 1,678,543	570,266	▲ 2,454,263	▲ 4,703,072
2. 経常外増減の部					
経常外収益	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
一般正味財産増減額	▲ 4,132,806	▲ 1,678,543	570,266	▲ 2,454,263	▲ 4,703,072
一般正味財産期首残高	304,061,220	303,490,954	303,490,954	570,266	570,266
一般正味財産期末残高	299,928,414	301,812,411	304,061,220	▲ 1,883,997	▲ 4,132,806
II 指定正味財産増減の部					
【特定資産運用益】野依賞基金					
特定資産受取利息	400	400	34	0	366
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	4,000,000	0	0
一般正味財産への振替額	▲ 4,000,000	▲ 4,000,000	▲ 2,923,959	0	▲ 1,076,041
当期指定正味財産増減額	400	400	1,076,075	0	▲ 1,075,675
指定正味財産期首残高	6,047,288	4,971,213	4,971,213	1,076,075	1,076,075
指定正味財産期末残高	6,047,688	4,971,613	6,047,288	1,076,075	400
【特定資産運用益】Mukaiyama Award基金					
特定資産受取利息	1,000	1,500	105	▲ 500	895
受取寄付金	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	▲ 1,600,000	▲ 1,600,000	▲ 1,645,388	0	45,388
当期指定正味財産増減額	▲ 1,599,000	▲ 1,598,500	▲ 1,645,283	▲ 500	46,283
指定正味財産期首残高	8,858,603	10,503,886	10,503,886	▲ 1,645,283	▲ 1,645,283
指定正味財産期末残高	7,259,603	8,905,386	8,858,603	▲ 1,645,783	▲ 1,599,000
III 正味財産期末残高	313,235,705	315,689,410	318,967,111	▲ 2,453,705	▲ 5,731,406

表 7・2 平成 31 年度正味財産増減予算書内訳表( 1 / 2 )  
(平成 31 年 1 月 1 日から平成 31 年 12 月 31 日まで)

科 目	公益目的事業会計				その他事業	法人会計	合 計
	公 1 編集・出版	公 2 研究会	公 3 表 彰	公益事業共通			
1 【一般正味財産増減の部】							
2 1. 経常増減の部							
3 経常収益計	13,753,000	36,680,000	11,960,000	54,008,271	5,560,947	17,242,447	139,204,665
4 特定資産運用益	5,000	4,000	760,000	0	0		769,000
5 編集出版特定資産受取利息	5,000						
6 研究会特定資産受取利息		4,000					
7 表彰特定資産受取利息			760,000				
8 退職特定資産受取利息	0	0	0	0	0	3,500	3,500
9 受取会費				54,008,271	2,050,947	12,305,682	68,364,900
10 個人会員費受取会費				28,130,241	1,068,237	6,409,422	35,607,900
11 法人会員費受取会費				23,581,500	895,500	5,373,000	29,850,000
12 団体会員費受取会費				126,400	4,800	28,800	160,000
13 学生会員費受取会費				2,170,130	82,410	494,460	2,747,000
14 事業収益	13,748,000	35,586,000	5,600,000	0	3,510,000		58,444,000
15 編集出版事業収益	13,748,000						13,748,000
16 会誌事業収益	4,140,000						4,140,000
17 広告事業収益	8,700,000						8,700,000
18 別冊事業収益	35,000						35,000
19 会誌関係雑収益	0						0
20 単行本印税収益	600,000						600,000
21 複写権使用料収益	273,000						273,000
22 研究会事業収益		35,586,000			2,360,000		37,946,000
23 シンポジウム事業収益		18,037,000					18,037,000
24 講習会事業収益		13,030,000					13,030,000
25 懇談会事業収益		4,269,000			210,000		4,479,000
26 見学会事業収益		250,000			2,150,000		2,400,000
27 表彰事業収益			5,600,000	0	1,150,000		6,750,000
28 企業冠賞事業収益			5,600,000	0			5,600,000
29 研究企画賞事業収益					1,150,000		1,150,000
30 その他表彰事業収益							0
31 寄付金収益		1,090,000	5,600,000	0		0	6,690,000
32 受取寄付金		1,090,000	5,600,000	0			6,690,000
33 雑収益		0				4,933,265	4,933,265
34 受取利息		0				3,265	3,265
35 雑収益		0				220,000	220,000
36 懇親会参加料収益						4,710,000	4,710,000
37 経常費用	45,736,460	55,986,857	18,913,134		5,156,062	17,544,960	143,337,471
38 事業費	45,736,460	55,986,857	18,913,134		5,156,062		125,792,512
39 編集出版事業費	26,715,231						26,715,231
40 印刷製本費	12,006,176						12,006,176
41 用紙費	3,944,990						3,944,990
42 原稿料・校正費	878,000						878,000
43 編集費	843,715						843,715
44 送達費	7,832,750						7,832,750
45 別冊作成費	283,500						283,500
46 電子出版費	926,100						926,100
47 研究会事業費		32,607,987			2,269,000		34,876,987
48 シンポジウム費		18,637,200					18,637,200
49 講習会費		6,686,314					6,686,314
50 懇談会費		3,967,873			119,000		4,086,873
51 見学会事業費		250,000			2,150,000		2,400,000
52 研究会議費		108,600					108,600
53 事務委託費		2,623,000					2,623,000
54 支払寄付金		335,000					335,000
55 表彰事業費			13,259,257		55,900		13,315,157
56 表彰事業費			2,837,257				2,837,257
57 企業冠賞費用			4,822,000				4,822,000
58 研究企画賞費用					55,900		55,900
59 国際賞費用			4,000,000				4,000,000
60 Mukaiyama Award事業費			1,600,000				1,600,000
61 給料手当	10,391,097	11,878,933	2,969,733		1,487,836		26,727,600
62 アルバイト費	960,336	1,097,668	274,417		137,579		2,470,000
63 退職給付費用	979,720	1,120,000	280,000		140,280		2,520,000
64 その他人件費（福利厚生費）	2,109,897	2,412,000	603,000		302,103		5,427,000
65 会議費	195,000	292,500	65,000		32,500		585,000
66 旅費交通費	588,000	882,000	196,000		98,000		1,764,000
67 通信費	360,000	540,000	120,000		60,000		1,080,000
68 什器備品費	150,000	225,000	50,000		25,000		450,000
69 事務用品・リース費	600,000	900,000	200,000		100,000		1,800,000
70 水道光熱費	87,000	130,500	29,000		14,500		261,000
71 事務所賃借料	1,329,679	1,994,518	443,226		221,613		3,989,037
72 雑費（税・手数料・会費・IT）	1,270,500	1,905,750	423,500		211,750		3,811,500

表 7-3 平成 31 年度正味財産増減予算書内訳表(2/2)

(平成 31 年 1 月 1 日から平成 31 年 12 月 31 日まで)

科 目	公益目的事業会計				その他事業	法人会計	合 計
	公1 編集・出版	公2 研究会	公3 表 彰	公益事業共通			
管理費						17,544,960	17,544,960
給料手当						2,969,733	2,969,733
退職給付費用						280,000	280,000
その他人件費(福利厚生費)						603,000	603,000
懇親会費用						7,960,000	7,960,000
会議費						750,000	750,000
旅費交通費						1,991,000	1,991,000
通信費						266,000	266,000
什器備品費						50,000	50,000
事務用品・リース費						200,000	200,000
水道光熱費						29,000	29,000
事務所賃借料						443,226	443,226
諸謝金						1,200,000	1,200,000
雑費(税・手数料・会費・IT)						803,000	803,000
当期経常増減額	▲ 31,983,460	▲ 19,306,857	▲ 6,953,134	54,008,271	404,885	▲ 302,513	▲ 4,132,806
2. 経常外増減の部							
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0
計上外費用	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
3. 一般正味財産増減額							
一般正味財産期首残高							304,061,220
一般正味財産期末残高							299,928,414
当期一般正味財産増減額							▲ 4,132,806
【指定正味財産増減の部】							
1. 高砂香料国際賞「野依賞」基金							
指定正味財産運用益			400				400
特定資産受取利息			400				400
受取寄付金			4,000,000				4,000,000
一般正味財産への振替額			▲ 4,000,000				▲ 4,000,000
指定正味財産期首残高			6,047,288				6,047,288
指定正味財産期末残高			6,047,688				6,047,688
2. Mukaiyama Award基金							
指定正味財産運用益			▲ 1,599,000				▲ 1,599,000
特定資産受取利息			1,000				1,000
受取寄付金							0
一般正味財産への振替額			▲ 1,600,000				▲ 1,600,000
指定正味財産期首残高			8,858,603				8,858,603
指定正味財産期末残高			7,259,603				7,259,603
【正味財産期末残高】							
正味財産期末残高							313,235,705

報告 4 永年会員昇格者

会員規程第 4 条により、満 75 歳で 20 年連続在籍者を平成 31 年度より永年会員とする（入会順；敬称略）。

井上 誠一 吉良 満夫 高部 圀彦 田辺 敏夫 佐藤 雅之 谷口 正俊 山口 晴司  
 梶 英輔 小松 満男 融 健 須田 晃治 西村 淳 伊藤 勇 西口 郁三  
 加藤 喜規 北原 武 中田 忠 南部 洋子 田村 光彦 新村 勲 武内 征司  
 飯沼 勝春 町口 孝久

以上 23 名

その他 事案があれば挙手の上ご報告ください。

以上

【参考資料】

付表1 平成30年度決算の構成

科目	支部会計					支部会計				
	連結	本部	北海道	東北	関東	東海	関西	中国・四国	九州・山口	
1 I一般正味財産増減の部										
2 1. 経常増減の部										
3 (1) 経常収益	814,635	814,635								
4 【特定資産運用益】 特定資産受取利息	2,791	2,791								
5 【退職給付特定資産運用益】 正会員受取会費	69,363,000	69,363,000								
6 【受取会費】 編集出版事業収益	14,038,312	14,038,312								
7 【事業収益】 研究会事業収益	34,600,157	14,090,960	10,066,200	2,530,377	7,136,000					
8 表彰事業収益	8,100,000	8,100,000								
9 【受取寄付金】 受取寄付金	6,510,347	4,569,347			97					
10 雑収益	834	553	32	35	21					
11 雑収益	99,828	28,828	64,500							
12 雑収益	4,248,500	2,795,000	64,532	10,066,235	3,144,474					
13 雑収益	137,778,404	113,803,426	23,974,978							
14 経常収益計										
15 (2) 経常費用【事業費・管理費】										
16 編集出版事業費	27,140,641	27,140,641								
17 研究会事業費	25,484,122	6,094,869	162,676	7,262,581	2,890,010	574,550	1,363,211	328,261		
18 事務委託費	2,529,498	2,529,498				293,000		455,180		
19 支払寄付金	415,452	125,000	60,000	185,452				45,000		
20 表彰事業費	12,871,186	12,635,343						112,520		
21 給料手当	29,174,991	29,174,991								
22 アルバイト費	2,442,500	2,442,500								
23 その他人件費	5,662,818	5,662,818								
24 退職給付費用	3,002,791	3,002,791								
25 懇親会費	8,184,436	4,607,474								
26 会議費	881,991	521,715	178,656	5,566	1,173,422	57,000	127,517	334,004		
27 旅費交通費	3,881,676	360,276	8,910	16,000	34,173	39,805	117,580	38,901		
28 通信費	1,167,776	2,588,681	1,292,995	84,640	355,653	88,360	200,520	171,820		
29 什器備品・リース費	207,593	1,066,094	1,296		21,535	14,764	14,334	30,369		
30 事務用品・リース費	1,978,596	1,978,596								
31 水道光熱費	214,790	214,790								
32 事務所賃借料	4,367,520	4,367,520								
33 諸謝金	1,197,180	1,197,180								
34 雑費	6,402,581	6,075,400	327,181	2,700	9,288	10,965	30,403	49,722		
35 経常費用計	137,208,138	109,103,996	28,104,142	7,556,939	4,484,081	1,102,504	2,035,671	1,565,772		
36 当期経常増減額	570,266	4,699,430	▲ 392,642	2,509,296	▲ 1,339,607	▲ 1,102,483	▲ 875,036	▲ 720,749		
37 2. 経常外増減の部										
38 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0		
39 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0		
40 当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0		
41 3. 内部取引（他会計振替額）										
42 本部会計への繰入額	0	400,000	▲ 400,000		▲ 400,000					
43 事務委託費（関東支部会計へ）	0	400,000	▲ 400,000		▲ 400,000					
44 繰入額計	0	400,000	▲ 400,000		▲ 400,000					
45 本部会計からの繰出額（支部会計へ）	0	▲ 6,853,000	6,853,000	499,000	1,771,000	759,000	759,000	759,000		
46 支部別当金	0	▲ 840,000	840,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000		
47 若手セミナー討論会	0	▲ 550,000	550,000	550,000						
48 有機合成化学セミナー	0	▲ 193,255	193,255							
49 新春フォーラム・春シナジウム配分	0	▲ 8,436,255	8,436,255							
50 繰出額計	0	▲ 3,336,825	3,907,091	1,169,000	2,070,631	13,624	879,000	879,000		
51 一般正味財産増減額	570,266	275,328,786	▲ 12,642	3,678,296	▲ 331,024	▲ 209,859	▲ 41,943	158,251		
52 一般正味財産期首残高	303,490,954	271,328,786	3,649,143	4,100,813	9,058,279	2,101,717	1,690,623	2,924,288		
53 一般正味財産期末残高	304,061,220	271,991,961	3,636,501	7,779,109	9,389,303	1,891,858	1,694,587	3,082,539		
54 II 指定正味財産増減の部										
55 高砂海科国際賞【野依賞】基金										
56 【特定資産運用益】										
57 特定資産受取利息	34	34								
58 受取寄付金	4,000,000	4,000,000								
59 当期指定正味財産増減額	▲ 2,923,959	▲ 2,923,959								
60 前期指定正味財産増減額	1,076,075	1,076,075								
61 指定正味財産期首残高	4,971,213	4,971,213								
62 指定正味財産期末残高	6,047,288	6,047,288								
63 Mukaiyama Award基金										
64 【特定資産運用益】										
65 特定資産受取利息	105	105								
66 受取寄付金	▲ 1,645,388	▲ 1,645,388								
67 当期指定正味財産増減額	▲ 1,645,283	▲ 1,645,283								
68 前期指定正味財産増減額	10,503,886	10,503,886								
69 指定正味財産期首残高	8,558,603	8,558,603								
70 指定正味財産期末残高	318,967,111	286,897,852	3,636,501	7,779,109	9,389,303	1,891,858	1,694,587	3,082,539		
71 III 正味財産期末残高										